

福商会報

FUKUSHO OB COMMUNICATION MAGAZINE

発行所／社団法人 福商会 発行責任者／後藤 幹生 福岡市中央区大名1-12-57

TEL：092-711-9890 FAX：092-711-9266

Eメール：info@fukushokai.or.jp

<http://www.fukushokai.or.jp>

熱・意気・力

Vol.151

(2008年 5月発行)



106回生 福商会に301人が入会



湯下先輩の挨拶



清水校長の挨拶



山口理事長の歓迎挨拶

新会員に先輩から歓迎の言葉

卒業式を翌日に控えた2月29日、106回生(総合学科第6期生)301人の福商会入会式が、福翔高校多目的ホールで開かれました。学校からは清水昭男校長はじめ担任の先生方、父母教師会役員、福商会から山口毅理事長ほか役員並びに体育部OB会会長らが出席しました。

山口理事長から「福商会入会に同窓生を代表して心から歓迎します。これから進学や就職をされ、それぞれの道を歩まれると思いますが、更なる成長をされることを期待しています。自らが行動し、情報化時代と言われる今、知り得る情報を駆使して活躍してください」との歓迎の挨拶がありました。清水校長からも「福商会入会おめでとう。諸先輩には福博経済界はもちろん、多くの方が国内、世界で活躍されており、皆さんも誇りを持って行動し、後輩への励みとなるよう頑張ってください」とお祝いの言葉がありました。また、先輩を代表してバスケットボールOB会の湯下稔明会長(60回生)から、これまでの経験を通じて「目的に向かって努力を重ねることを忘れないで欲しい。心から相談できる友人・先輩・上司を持って」と後輩たちへ親しみを込めて激励の挨拶をされました。最後に新会員の前田直紀君から「



新会員を代表し挨拶する前田直紀君

のように盛大な入会式を開いていただきありがとうございます。母校の伝統に誇りを持ち、名誉を汚さないよう頑張ります」と決意表明がありました。

CONTENTS

福商入会式	2	随 想	14
理事会報告	3	アメリカからの便り	15
活動報告	4	同舟往来	16
新旧校長挨拶	5	南北アメリカ大陸縦断記	17
縦の糸の会	6	福商100年史	18
千の風になって	7	トピックス	19
学園だより	8~9	福商の輝く星	20~23
恩師シリーズ	10	会費納入者一覧	24~25
同窓会だより	11~12	企業紹介	26
青春プレイバック	13	広 告	27

第4回 理事会開催

2月8日、平成19年度第4回の理事会が開催されました。議案については後藤専務理事から福商会館入り口にある電柱を撤去し、2坪ほどの土地の有効利用を図りたい旨を提案し、全会一致で承認されました。また、本年は理事、代議員の改選期にあたり、新理事、代議員の選出依頼、全国合同同窓大会の広告協賛について協力の呼びかけがありました。

議案

第一号議案

会館入り口電柱撤去工事の件

報告・依頼事項

- 一、収支報告(4月～1月)
- 二、理事、代議員改選について
- 三、110周年記念事業取り組み
- 四、全国合同同窓大会広告協賛依頼
- 五、年会費納入報告(4月～1月)

第3回 三者懇談会開く

定例の三者懇談会を3月28日、福翔高校で開催しました。今回は、平成19年度卒業生の進路状況(大学合格、就職内定)や進研模試の結果につ



いて意見交換を行いました。また、サテライト講座の利用状況は「特別進学クラスの利用が高まっており、結果も出てきている」との報告もあり、来年の大学入試に期待を寄せていました。

*平成19年度大学合格、就職状況は4ページに記載しています。

母校活性化委員会 活動報告

11月9日 安河内委員長らが学校を訪問し「母校活性化委員会」を設置したことを学校長に報告し、現在進めている「福翔改革」の取り組みについて説明会の開催をお願いしました。

12月26日 学校側から清水校長、中山、井上両教頭、委員会側から安河内委員長、後藤専務他5名が出席し、説明会が開かれました。

清水校長から「福翔改革セカンドステージ」総合学科の課題と展望」と題し、パワーポイントを使って説明がありました。改革の柱として、進学希望者が増えていることから、総合学科の特色である「自由な科目選択」から進学指導体制の強化を図った「コース選択制」を取り入れる。進学希望者には全員課外補習授業を受けさせるなど、「行きたい学校へ結果をだす」取り組みについて話がありました。

1月17日 学校の説明を受け、活性化委員会で話し合いを行った結果、進路実現に向けて「具体的数値目標」を立ててもらったことを確認しました。

1月25日 安河内委員長、後藤専務理事、川瀧事務長の3人で学校を訪問し、委員会で確認した「数値目標」の取り組みについて説明しました。また同委員会として3年前、山口理事長が学校に要望した「九大10名、西南大100名合格」の実現を再度学校長にお願いしました。



奨学育英基金に寄付

12月14日、32回生の緒方正實、柴田岩夫、淀川良太郎先輩が会館を訪れ、「奨学資金として役立てて欲しい」と寄付がありました。先輩たちは毎月、会館に集まり旧交を温めています。



また、52回生の中島清さん、54回生の篠原隆義さんからも「奨学金に役立ててください」と金一封を持参されました。皆様のご厚情に心から感謝申し上げます。

体育4部に奨励金を贈呈

2月29日、福翔高校で清水校長、体育部顧問の先生方、保護者代表らが出席し、山口理事長から体育4部



(野球、剣道、バスケットボール、サッカー)に体育奨励金が各部の代表者に渡されました。

山口理事長から「母校の発展を願って贈呈します。保護者の皆さんも顧問の先生が指導しやすいように支援していただき、生徒たちが活躍されることを期待しています」との挨拶がありました。また、各部の皆さんからは「古豪復活と言われるよう全力を尽くして頑張ります」と力強い言葉があり、今年の飛躍に向け意欲をみせていました。

英語弁論大会で優秀賞を受賞

3月10日、母校3年の野口舞さんが担任の花村先生と来館されました。

てもらいたいと思います」と先輩としての熱い思いを語っていました。

**体育部OB会に
体育振興強化費贈呈**

3月27日、福商会館に4体育部(野球、剣道、サッカー、バスケットボール)のOB会長、福商会の山口理事長や役員が出席し、母校体育強化費を贈呈しました。現在、学校にも母校体育奨励金を寄付しており、母校の更なる活躍のため、OB会活動を活発にして貰うことを願うことです。



野口さんは昨年12月に行われた福岡市姉妹都市委員会が主催する「第33回英語弁論大会」で見事優秀賞に輝き、その報告に訪れたものです。副賞として「アメリカ・アトランタ市ホームステイの旅」を受賞し、3月末から10日間、アトランタ市を旅行されました。

福商会奨学金を奨学生へ給付

3月18日、福翔高校で下期の奨学金を奨学生へ給付しました。学校からは中山教頭ほか先生方、本会からは安河内副理事長らが出席しました。中山教頭から「福商会から毎年奨学金を出していただき感謝しております。同窓の皆様は母校愛、愛着は他校にないものであり、奨学生の皆さんは誇りを持って頑張ってください」との挨拶がありました。福商会を代表した後藤専務理事からは「奨学生の皆さんは学業、部活に励み、自分自身を高めるとともに、リーダーシップを発揮して、学校力を高めるよう努力し

**平成19年度
大学等合格者数及び就職状況**

国公立4年制大学	
学校名	人数
佐賀大学	4
北九州市立大学	3
長崎大学	1
九州工業大学	1
鹿屋体育大学	10
計	19

私立4年制大学(2部を含む)	
学校名	人数
福岡大学	95
九州産業大学	54
西南学院大学	26
久留米大学	19
筑紫女子園大学	18
近畿大学	11
福岡工業大学	8
福岡女学院大学	7
立命館大学	6
中村学園大学	5
早稲田大学	5
慶應義塾大学	3
立教大学	3

私立4年制大学(2部を含む)	
学校名	人数
九州看護福祉大学	3
日本大学	2
聖マリア学院大学	2
立命館アジア太平洋大学	2
明治学院大学	2
日本赤十字九州国際看護大学	2
第一福祉大学	2
創価大学	2
福岡女学院看護大学	2
東京理科大学	2
上智大学	2
九州共立大学	1
青山学院大学	1
明治大学	1
志学館大学	1
東海大学	1
梅光学院大学	1
法政大学	1
奈良大学	1
文教大学	1
名古屋芸術大学	1
拓殖大学	1
名城大学	1
桜美林大学	1
福岡経済大学	1
計	297

私立短期大学(2部を含む)	
学校名	人数
中村学園短期大学部	6
福岡女子短期大学	3
精華女子短期大学	3
九州造形短期大学	2
香蘭女子短期大学	1
筑紫女子園短期大学	1
近畿大学九州短期大学	17
計	39

19年度	
就職	人数
看護医療系専門学校	計 14
専門学校	計 59
計	計 45

新校長就任挨拶

福岡市立福岡高等学校

校長 宇土 健治



福商会の皆様にはご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃

から温かいご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

平成20年4月1日付で本校第25代校長に就任いたしました。昭和43年3月福岡商業高校卒業の66回生でもあります。OB校長としては、第10代吉原誠校長(24回生)、第15代長澤重嘉校長(43回生)について3代目の校長になります。どうぞよろしく願います。

さて本校は明治33年(西暦1900年)に福岡市商業学校として開校し、以来100年を超える輝かしい歴史と伝統のなか、多くの著名な人材を輩出してきました。卒業生は、すでに3万余。福博はもとより全国に拡がり、経済界をはじめ多くの分野で活躍をされています。創立100周年の平成12年(西暦2000年)に、総合学科に改編し、平成20年で9年目を迎えました。平成18年にその間の学校の有り様

を踏まえ、より確かな改革へ邁進する「平成の福岡改革セカンドステージ」と位置づけ「特色ある総合学科」を推進しております。

本年度はその完成年度にあたり、その成果をあげるよう全力を傾注し、「古豪復活」を目指すつもりです。以下の重点目標を掲げ取り組みことにしています。

1 **POINT**

校長を中心に調和のとれた学校運営をおこなうとともに、生徒の進路実現を重点に、進学では九州大学を含む国立大学現役30名以上、地元西南大学80名以上、福岡大学150名以上を目標に、就職では高位資格取得を活用した就職率100%を目標に努力します。

2 **POINT**

教職員の意識改革を進め、教育内容の精選と授業方法の工夫改善や、サテライト講座、ジュニア・アチーブメントの積極的な活用を通して、学力が身につくよう授業の質を高める取り組みをします。

3 **POINT**

基本的な生活習慣の確立と規範意識を高め、福岡生にふさわしい生徒の育成を図るとともに、開かれた学校づくりの一環として、三者懇談会、才

「ブンスクール、中学校、学習塾等への訪問などに力を入れ、本校広報活動に努めます。

今後とも福商会の皆様のご理解とご支援を切に願いましたしまして挨拶いたします。

平成20年4月

前校長転任挨拶

お世話になり、有り難うございました。

福岡市立西陵高等学校

校長 清水 昭男



このたびの人事異動で福岡西陵高校へ転勤となり、本校を離任することとなりました。社団法人福商会の皆様には、大変お世話になりました。心より厚く御礼申し上げます。

顧みますと、創立100周年を迎えてのお祝いムードと、一方では総合学科となり校名も福岡高校へと改まって、商業高校でなくなった名残惜しさ、為った以上はがんばろうという開き直りにも似た取り組みが交錯する、そんな本校に教頭として着任した平成12年が、私にとって皆様方

と初めてお会いしたときでした。

定時総会、全国合同同窓大会、東京支部と京阪神支部の福商会、ほか多くの会合において、私のような若輩者の挨拶をじっと聞いてくださったことは、思い出すに赤面の至りですが、大先輩方の皆様の優しさを感じずにいられません。

市立高校初めての二人教頭制が本校で始まり、当時の渡り教頭先生からも多くを教わった意義深い『福商』生活を今は懐かしく思います。教頭で3年間、歩き始めたばかりの総合学科づくりに取り組ませていただきました。その後、福岡女子高校に転勤となり、再び3年後に校長として2年間、今度は福岡が更に成果を挙げて市民から信頼され期待されるための基礎作りに参画させていただきました。ができ、ありがたく存じています。

熱意・力のフクシヨウ文化に多くを学ばせていただいたことを本当に感謝していますし、出光佐三氏を始め偉大な諸先輩の生き様に触れ、私自身強い影響を受けました。それを現役の生徒諸君に少しでも伝えきったかということ、学校経営に成果が出せたかということには不安が残りますが、精一杯努めさせていただいたことには嘘はございません。

福商会の益々のご発展、会員の皆様のご健勝、母校フクシヨウの躍進を祈念し、感謝を以ってお別れの言葉といたします。

平成20年3月末日

「第5回 福商縦の糸の会」を盛大に開く

先輩、後輩164名が 同窓の絆深める



新春の集い「第5回 福商縦の糸の会」が2月8日、福岡市博多区

の八仙閣で盛大に開かれました。

第一部は福商会理事長の山口毅氏(52回生)から「商いの心：人は、人を浴びて人となる」と題して講演がありました。中学生の頃から人一倍商売に興味を持ち、商売に無限の夢を感じたとのことで、福商までの20キロの道のりを3年間、自転車通学で頑張り抜いたそうです。この経験がその後の人生にも生かされ、どんな厳しいことがあってもチャレンジしようとする勇気が湧き、このことが人生の礎となり、「人との出会いが私を支えてくれた」と熱い想いを込めて話しました。

第二部の懇親会では、満92歳になられた山本武先輩(30回生)から若々しい乾杯の音頭で始まり、先輩、後輩や先生方、父母教師会役員ら164名が同窓の輪を広げ、交流を深めました。また、女性の会「さくら会」から今年、子年生まれの人たちに「誕

生祝い」として「輪の花」がプレゼントされ、一味違った趣向で会場は大いに盛り上がりました。

最後は全員で校歌、博多祝い唄と続き、1月に博多祇園山笠振興会会長に就任された瀧田喜代三氏(55回生)の博多手一本で締め、楽しい宴を終えました。



母校の先生方の挨拶



当番幹事(83回生)の皆さん



賑わう会場



先輩後輩の交流



乾杯の音頭をとる山本武先輩



旧友との再会に話も弾む



瀧田喜代三氏の博多手一本

「第58回福商会全国合同同窓大会」開催のご案内

日時

平成20年6月15日(日)

会場

ホテルニューオータニ博多
福岡市中央区
渡辺通1丁目1-2

☎092(714)1111

第一部

式典(3階芙蓉の間)
午後3時30分～4時30分

第二部

懇親会(4階鶴の間)
午後5時～7時

会費

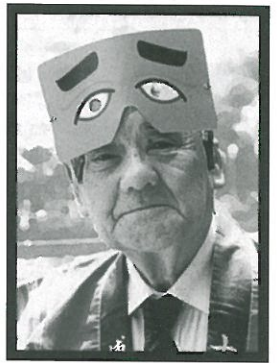
6,000円

お問い合わせは
福商会事務局まで

☎092(711)9890

古田鷹治先輩 (42回生)を偲ぶ

理事・箱崎支部長



箱崎福商会の巨星逝く

箱崎福商会の会長でありました古田鷹治先輩(42回生)が3月1日逝去されました。箱崎福商会はもちろん箱崎の人達から慕われ、箱崎、博多の「生き字引的」な郷土史家であり、また博多の伝統文化の伝承に尽くされ自らも博多仁和加を演じられ、人望が厚く温厚な先輩でありました。昨年菅崎宮放生会の「幕出し」(博多の人たちが長持ちを担いで放生会詣りする行事)を無事勤められた直後の9月19日に倒れられ、5カ月余の闘病の末ついに帰らぬ人となりました。

箱崎福商会は元福商校長吉原誠先生(24回生)など地元卒業生によって、戦前に糟屋郡箱崎村の「米曹(べいそう)会」(「糟」の字を二つに分けて読む)が箱崎福商会の始まりで、昭和30年代に再開されました。箱崎福商会は毎年開かれ40回を超えるようになり、古田先輩が第6代の会長として会の発展のためご尽力されました。福商会の支部としては一番古い支部であります。

また古田先輩はこよなく箱崎を愛

され箱崎、博多の文化やしきたりを研究され、古い箱崎の伝統文化を後輩たちに指導して来られました。

「箱崎伝統文化保存会代表」、「博多仁和加振興会会長」、「博多町人文化連盟副理事長」、「博多仁和加箱善組代表」また、「菅崎宮祭典委員」、「菩提寺総代」、「老松会」(箱崎、馬出の人たちが長寿を祝って菅崎宮に絵馬を掲額する行事)など地域の世話もされ、両手の指で数え切れない程の役職を持ちながら忙しく活動してこられました。地域の人たちからも慕われ、特に福商会の会合には必ず出席され、同窓会最後の校歌、博多祝い唄のあの淡い声は忘れ難い思い出となりました。

先輩の活躍を書くにはあまりにも業績があり語り尽くせませんが、最後に私共「箱崎福商会」は古田先輩が築いて来られた福商伝統「熱意気力」を守って後輩たちに引き継いで行きます。「千の風になって」我々を見守って下さい。どうぞ安らかに眠り下さい。

享年82歳。

合掌

箱崎福商会一同代表

梅津 和義(51回生)

出利葉(旧姓山崎) 綾子先生を 偲んで



卒業50周年に再会

福岡商業に入学したのは敗戦の大混乱期、昭和21年の春である。第一志望校であったので、喜びと感激のうちに入学した。しかし、私には必修科目「選択科目など不理解的な言葉が多く、国語も第一第二に分かれていた。第二国語を山崎綾子先生に教わった。若くて小柄で目が大きく、言葉もやさしく丁寧で、姉のような先生の授業が楽しかった。出利葉博先生と結婚され、綾子先生は他校に転任されたが、以来お会いすることはなかった。その後、激動の50年が経過し記念同窓会を催す事にし、博先生ご夫妻にもご出席を頂いた。この時が、綾子先生と公の場でお会いした最後であった。

病氣見舞いに訪問

去年の7月24日土用の暑い日、先生方が気がになり、電話でアポを取り「待ってるよ」の言葉に甘えてお訪ね

した。博先生は上半身裸で、綾子先生はベッドに休んでおられた。綾子先生は、手を差し伸べ私の手を自分の胸に抱いて喜んでいただき、目には熱い涙が光っていた。お姿に心を痛め「元氣になつて下さい」と声をかけるのがやっと。博先生も教師冥利につきると感激されていた。8月11日ぶどうを持参し「暑さに負けぬように」と届けた。博先生とは玄関で立ち話をして別れたが、その5日後、博先生の訃報を聞き愕然とした。そして綾子先生は如何かと消息を心配していたが、福商会からの連絡で、金隈病院に入院との知らせがあり、早速見舞いに駆けつけた。先生は眠っているようで、何度も声を掛けたが応えがなく、心で「永い間有難うございました」とお別れの挨拶をした。

その後ひと月ばかりして綾子先生のご逝去の知らせをいただいた。今は博先生が、綾子先生をお呼びになったのでは、と心に言い聞かせ、ご夫妻のご冥福を祈っている。

江崎 利雄(50回生)

福商会新入会員紹介

今春卒業し、新会員になった106回生の皆さんから「一言」を頂きました。皆さんの入会を心から歓迎致します。

- 1 氏名 2 福翔高校の思い出 3 進学先、就職先 4 今年の抱負
5 これからの目標



- 1 藤井 明日香
2 バスケット部長として1年間頑張ったこと。
3 トップラン・フォームズ株式会社 西日本事業部
4 自分に厳しくする
5 辛い時も苦しい時も笑顔を忘れずに頑張る



- 1 松田 祥志
2 福翔での思い出といえばやっぱりサッカー部での毎日です。サッカー部の練習は毎日きついものですが、その中で仲間の大切さ、根性、努力などを学びました。
3 KCS福岡情報専門学校
4 専門学校で無遅刻・無欠席です。
5 毎日意味のある事をしたいです。楽しむ時は精一杯楽しみたいです。



- 1 梅野 竜太郎
2 毎日坂道の多い通学路を頑張って通ったこと。いつも早く金曜日になってほしいと思っていたこと。進路が決まったときはとてもうれしかったこと。
3 福岡大学 商学部
4 新しい環境に早く慣れたいと思う。
5 大学の4年間を無駄にせず、いろいろな経験をして立派な社会人になれるように頑張りたい。



- 1 井本 紗千
2 福翔高校での思い出は、まずは部活です。私は陸上競技部に入部しました。毎日の練習や春と冬にある合宿は本当にきつかったけれど、この3年間で多くのことを学ぶことができました。陸上部の仲間たちは、一緒にいると楽しく最高の友達です。あとは、体育祭です。3年生では、演舞の太鼓をすることができ、すごくいい思い出になりました。
3 陸上自衛隊 一般曹候補生
4 今年は何もかもが初めてのことなので、目の前のことを一つ一つ乗り越えて行きたいです。部活やあのかつい集団行動で鍛えたものを活かしていきたいです。
5 自衛隊に入隊したら、最初の訓練を、周りに置いていかれないように一生懸命頑張ります。



- 1 生山 敦史
2 サッカー部に入り、部活漬けの毎日でした。きつかったし、つらかったけど、今ではいい思い出です。部活以外では、2年生の時の研修旅行が印象深いです。沖縄にいつかもう一度行きたいと思います。
3 創価大学法学部 法律学科
4 東京での生活に慣れ、充実した一年間にする！
5 自分の一生の仕事を見つける！



- 1 鎌田 慎司
2 剣道部での3年間と最後の体育祭
3 西南学院大学 経営学科
4 大学生らしい行動をして、いろんなことにチャレンジしたい。
5 将来の夢に向かって努力する



- 1 石橋 愛理
2 体育祭や文化祭などの行事はもちろん、福翔で過ごした3年間は、すべて思い出です。
3 西南学院大学 商学部経営学科
4 勉学に励み、充実したキャンパスライフを送りたいです。
5 出来るだけ、たくさんの資格を取得しようと思っています。



- 1 大浦 恵
2 みんなで協力して最高の体育祭をつくりあげることができ、勉強も頑張って、志望校に合格。充実した高校生活を送ることができました。
3 九州医療センター附属福岡看護助産学校 看護学科
4 早く学校生活に慣れ、看護師になるための勉強を頑張る。
5 看護師国家試験に合格し、九州医療センターで働いて看護師のエキスパートを目指す。



- 1 脇田 康介
2 サッカー部で毎日部活に励み、厳しい練習を仲間と乗り越えて最後の試合は、憧れの博多の森球技場で試合をしたことや、体育祭でたくさんの人と親交を深め、体育祭を皆で成功させたこと。
3 中村学園大学 人間発達学部児童発達学科専攻
4 大学生・社会人としての自覚を持ち、責任感を持って行動し、大学生活を楽しみ勉強もしっかりする。
5 親に頼らず今まで以上に自立する。

体育部・文化部の主な成績

平成19年12月～平成20年3月

体育部 県大会出場以上

バスケットボール部

福岡県バスケットボール新人大会

◆1月12日・13日(土・日) 於:小郡高校・久留米信愛高校

- 1回戦 福翔 94-77 嘉穂 決勝 1回戦 福翔 56-109 福岡第一
2回戦 福翔 97-68 柳川 2回戦 福翔 62-116 福大大濠
3回戦 福翔 91-85 自由ヶ丘 3回戦 福翔 58-81 宗像

文化部

美術部

第22回福岡県高等学校総合文化祭

◆12月10・11日(月・火) 於:福岡県美術館

[美術工芸部門] 福岡県大会

<デザイン部門> 1の1 立本 早夏 ©全国大会推薦(第32回群馬大会)

<絵画部門> 1の1 宮川 ちえ 特選

2月3日(日)

第21回高文連デザインコンペ 優秀賞 1の2 樹田 愛架

第18回高文連絵はがきコンクール 特選 1の1 宮川 ちえ・立本 早夏

放送部

九州地区高校放送コンテスト長崎大会

◆12月12日(水)～14日(金) 於:長崎ハウステンボス

<ラジオ番組部門>

「えらいこっちゃ」1の1 吉瀬 紫乃 準決勝進出 入選(奨励賞)

福岡県高文連放送コンテスト南北大会 2月3日(日) 於:小郡高校

<アナウンス部門>

奨励賞 2の8 貝屋 めぐみ 2の9 桐田 理子

英会話部

第33回英語弁論大会

◆12月16日(日) 於:婦人会館大研修室(あいれふ)

優秀賞 3の2 野口 舞(副賞:アトランタ市ホームステイの旅)

吹奏楽部

福岡アンサンブルコンテスト:県大会

◆1月5日(土) 於:なかまハーモニーホール

打楽器三重奏 銀賞受賞

書道部

第44回全日本書初め大展覧会(主催:日本武道館)

◆2月24日(日)

全日本書写書道教育研究会賞 2の4 三宅 いず実

日本武道館賞 2の4 林田 桃子

今月号から、母校の部活動について紹介していきます

現役福翔高校生の
部活ライフを
覗いてみよう

部活動紹介

福翔高校
FUKUSHO

Vol. 01
今月号は
剣道部
です

10回目の優勝が夢

福岡商業剣道部は、大正5年に始まった玉竜旗大会(前身全九州高校剣道大会)80回の歴史の中で、9回の優勝を達成しています。大正14年・昭和17・30・31・33・34・35・50・51年です。しかしながらここ30年以上優勝に手が届かず、10回目の優勝達成が夢であり目標です。



創部百周年記念で新装した、福商剣友会員名札の下で

平成17年10月29日には福商剣友会主催による「福商剣道部創部百周年記念式典」と「中学校招待剣道大会」が開催されました。翌平成18年10月には「福商剣道部百年史」が発

行されました。また、現役員用のマイクロバスも福商剣友会から寄贈していただき、現在岡山から鹿児島までの遠征試合に大いに役立っています。

現在1・2年部員は男子6名、女子4名ですが、平成20年度新入生男子3名、女子5名の剣道経験者の入学も決定しました。今後は遠征試合、合宿で鍛錬し、今後の飛躍が期待されます。

平成19年4月に筑紫高校で福岡県大会優勝の成績を残された菊池忍先生(本校OBで鹿屋体育大学出身・平成元年玉竜旗大会ベスト8のメンバー)に監督就任して頂き、今後の活躍に期待するところ大です。

昭和46年5月より指導を行ってまいりました私は本年3月31日で定年退職となりました。37年間、福岡商業・福翔高校にお世話になりました。誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

今後は菊池先生がその指導力を発揮してくれること信じております。福商会の皆様には今まで以上に支援助とご協力をお願い申し上げます。

平成20年3月31日

福翔高校剣道部部长

芝 恭介

平成20年度人事異動 平成20年4月1日付

転出

- 清水 昭男 校長先生
- 福岡西陵高等学校へ
- 中山 哲紀 教頭先生
- 博多工業高等学校へ
- 大久保 真紀先生
- 福岡女子高等学校へ
- 田代 智則先生
- 福岡西陵高等学校へ
- 大塚 美穂先生
- 教育センター長期研修員へ
- 福吉 智也 技術吏員
- 西高宮小学校へ

転入

- 宇土 健治 校長先生
- 博多工業高等学校から
- 谷川 秀水 教頭先生
- 福岡女子高等学校から
- 児島 利太郎先生(保健体育)
- 福岡西陵高等学校から
- 新谷 和寿先生(国語)
- 博多工業高等学校から
- 鍵山 典子先生(英語)
- 福岡女子高等学校から
- 吉村 佳則先生(国語)
- 研修交流
- 福岡女子商業高等学校から
- 野中 悠作(技術吏員)
- 新規採用

退職

- 長い間お疲れさまでした
- 江頭 哲見先生
- 奥村 高洋先生
- 芝 恭介先生
- 森 任一先生



59回生の新年会開きました

2月2日正月気分は抜けていまして、新年会を開きました。セントラルホテルで川勝先生、蔵本先生参加のもと総数59人。ミニ同窓会は開催するたびに人数が増えて喜んでいきます。



この日はクラスごとにテーブルを囲み懇親。食事の途中から司会者の指名により、近況報告などを発表してもらいました。進んで発表を待っている人、初めて壇上で発表した人、ちよっと遠慮気味の人もありましたが、40人の発表を聞きました。当たり前ですが、おおかたの人が自分の意思

ですっかりと今を歩いています。そして壇上で真面目に発表していることに驚きました。59回生は素晴らしい。出席者全員に話してもらおうべきでしたが、それもできず残念でした。次回も全員元気でお会いしましょう。

羽野 恭子

61回生
「心のゆとりをつくる会」新年例会

会発足3回目の新年を迎え、少々遅めですがメンバーの予定が立てやすい2月を新年例会の開催月にしており、今年は2月23日(土)に長浜魚市場内の魚市場会館にある「博多魚がし」での開催。



今回のテーマは冬の味覚、美味しいぶぐ料理を腹いっぱい食べ「今年の福を呼ぼうー」の「満福(ぶくぶく)会」。全員我を忘れ、ぶく刺しに向かつて箸が一直線。皿が空になればまた出てくる、また箸が一直線の繰り返し…。全員満福の顔、もう福がいっぱい。ぶく刺しとぶぐのから揚げのあとは「鮫鯉(あんこう)鍋」。もう贅沢三昧。「年4回以上ここでやろっよ」との声がでるありさま。というのも「博多魚がし」はこの会の井上会長のお店であるため、このような贅沢三昧ができるわけだ。

「ありがたい、ありがたい」。杯もすすみ最後の福引きは「ぶぐ」と「鮫鯉」の効果があったのか、全員それぞれの賞を当て笑顔・笑顔で「今年もよくなる年になるばい」。3時間は、あっという間に過ぎお開きの時間。なかなか腰が上がりえない状況でしたが、博多手一本で締めました。

「心のゆとりをつくる会」事務局
内藤 博

69回生3年3組同窓会

3月16日(日)、天神の平和楼で69回生3年3組同窓会を開きました。私たちは女子クラスでしたが、37年振りに再会した人もいて、会場は感激の渦で盛り上がりました。会の終わりには、次回同窓会は「温泉旅行に

行こう」の話が出るなど、楽しいひと時を過ごし「元気で来年会おうね」と約束して宴を終えました。



幹事 湯川 恵美子
堤 まい



珠珠会だより...

第4回・第5回珠珠会報告
山本武先輩(30回生)の
長寿を祝う会



新春の1月19日に、博多駅筑紫口の「味処ひかり」で7名の会員が集い、山本先輩の92歳を祝いました。いつもでもお元気な先輩を囲んで

の酒席は、祝舞や人生観・歴史観の話など福商同窓生の凄さを再認識し、珠珠会の更なる発展を確認しました。
山本先輩の体験談は、大正・昭和・平成と92年の長きにわたる生き様に、一同感心しきりでした。元気の秘訣は少しの晩酌と、万物を愛する事との教えをいただきました。感謝、感謝……。

福商縦の糸の会 二次会開催

2月8日の縦の糸の会二次会を、博多駅のナインクラブで開催しました。山本顧問らと楽しく歓談、カラオケで懇親しました。心の通う珠珠会です。新会員が3名増えました。

- 坂本 徳俊氏(54回生)
- 井上 朋子氏(71回生)
- 浦塚 健二氏(89回生)



坂本先輩の絶妙な笑いのマジックに、参加者一同哑然としましたが、ネタ明かしもあり楽しさ倍増でした。次回、4月のお花見会を楽しみに散会しました。

なお、6月の総会後の二次会をお楽しみに……。

副会長 善生 喜利(69回生)

72回生
「森任一先生の還暦を祝う会」

桜の開花も間近かな平成20年3月23日(日)、春のお彼岸の大安吉日。福翔高森任一先生の「還暦を祝う会」が、博多発祥の水たき元祖「水月」(林田三郎君の店)で、森先生最初の卒業生である第72回生有志31名が参加し、盛大に催されました。

開会の辞の後、森先生より1970年に福商高に奉職された日の前日に起こった「日航機よど号乗っ取り事件」の話に始まり、1973年9月に校内で起きた「体育館立てこもり事件」、1974年に初の卒業生を送り出し、男泣きしたこと。市立女子



高での転勤悲話。福翔高への執念の復帰列伝等々を約30分にわたり熱く熱くご挨拶いただきました。また、森先生は本年3月末を以って定年退職され、38年間勤め上げられた教員生活に終止符を打たれるとのこと報告もあり、遠くは長崎市から駆けつけた「教え子」らはしばし深い感慨に浸っていました。

谷口政幸君の乾杯の発声で宴会が始まるや、水たきに舌鼓を打つ間もなく昔話や現在の暮らしなど、話の花は一気に満開となりました。

会場では色紙が回され、ひとりひとりが先生への感謝の言葉や思いを記していました。最後に、木村英司君の指導の下「恵比寿手」にて中締めとし、旧交を温めた「祝う会」はつつがなく終わりました。

加治 隆(72回生)

太宰府支部「観桜会」開催

4月5日(土)正午から太宰府の「寿し栄」で、支部恒例の「観桜会」を開催しました。当日は天候に恵まれ、桜の花も満開の時期で、会員16名の参加と本部から川瀬事務局長を来賓に迎え盛大に開かれました。

吉住支部長(42回生)の挨拶に続いて、川瀬事務局長から福商会、母校の近況報告の後、田代さん(36回生)の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。余興では森住さん(42回生)から、50年のキャリアがあるマジックで楽しいひと時を過ごしました。最後は校歌を全員で歌い、10月総会での再会を約して散会しました。また、懇談の中で、現会員38名を更に増やそうとの話も出て、近隣在住者数百名の卒業生に皆で声を掛けて行く事になりました。入会希望の方がおられましたら、福商会事務局へご連絡ください。



事務局 大西 正則(62回生)

福商時代が

僕らの青春

七たび全国優勝 栄光の福商速記部

西嶋 三七男(45回生)

ザ★青春

其の十一

playback
high teen of remember

遠足の往復中に暗記

福商速記部の生みの親とも言える石村善左氏が、速記と出会ったのは昭和5年6月、3年生の時だった。

中根速記協会長の中根正世先生が来校されて、全校生徒に講演された。翌日から希望者に3日間講習会が開かれた。講習終了後、希望者だけで、放課後に練習を始めた。これを機に速記部が創設された。そのうちに、学年対抗で校内競技会をすることに、なりにわかに緊張が高まった。

善左氏は講習会終了翌日の遠足の際、カードに基本文字を書き、往復の道すがら全部暗記した。帰宅後も練習に励み、2日目には基本文字だけで1分間150字が書けるようになった。ところが同級生のT氏が一步も二歩もリード、2人で猛烈に競り合った。

プロ顔負けの優勝

翌年2月に九州大会が開かれた。全国初の学生速記競技会という歴史的な催し。本校が会場で、1位が善左氏、2位がT氏。3位以下の長崎商業、久留米商業などにぐっと差をつけた。いつも善左氏より優位だったT氏が首位の座を奪われたのが気に入らなかつたのか、それ以来練習に残らなくなった。

その年の12月、東京で第1回全国中等学校中根式速記大会が開かれた。5位に入ればと予想していた善左氏

全国速記大会での 福岡商業の成績 (3位以上の入賞者)

大会	順位	氏名
1	2位	石村 善左
2	2位	石村 善左
3	3位	西浦 龍一
4	3位	西浦 龍一
5	優勝	石村善兵衛
6	優勝	田代 俊夫
	2位	藤野廣次郎
7	2位	金子定次郎
	3位	松尾 武雄
	3位	谷口 薫
8	2位	安武 正彦
	優勝	笠原 正行
9	2位	安武 正彦
	3位	今林 康夫
10	優勝	山内 盛行
11	優勝	西嶋三七男
13回以降は優勝者のみ		
16	優勝	中村 勝人
27	優勝	天野 一英

は2位に。さらに翌年の第2回大会では九割方優勝を決めていたのに、1点のミスで再び2位だった。同日午後に行われた、プロも参加する中根式速記選手権大会では優勝した。

善左氏はこの優勝よりも、中等学校大会で連続2位だったことが、悔しかったようだ。いつの日か優勝旗を母校にという決意は、弟の善兵衛氏に受け継がれた。以後は後輩の血脈に



草創期の速記部（昭和7年）

流れ続け、次々に優勝旗を持ち帰った。第12回大会（昭和22年）までは、毎回3位以内に入賞するという成績を残し、福商速記部の名を全国に轟かせた。13回以降も2度優勝しているが、その他にも好成績を残している人がいるはず。資料不備のため、その人たちのことを記録できないことをお詫びする。

速記部の復活を願う

速記は発言者の言葉を速記符号で書き留めながら、その間の発言を正確に聞き取ることが求められる。講演会にしろ座談会にしろ、通常2時間ほど続く。一瞬の気の緩みも許されぬ。このため速記者には集中力と忍耐力が身につく。それがないと一人前にはなれない。プロにならなくても、会社勤めや自営業者も速記ができれば便利である。

速記部が平成2年に消滅したことは大変残念だ。福商（福翔）速記部が復活し、その名を再び全国にアピールして欲しい。

母校での 学びが役立つ

母に代わって家事

高校時代のわたしの一日は朝4時に起床して家族の朝食づくりから始まりました。6時に自宅を出て学校に行き、学校が終わると博多駅まで歩いて帰る途中に夕食材料の買物をするのを日課にしていました。

博多駅から筑肥線の今宿駅まで約40分汽車に乗り、駅から自宅まで約1時間歩いていました。夜すべての家事が終わるのはいつも10時を過ぎていました。

休日は家族の汚れ物の洗濯と、掃除をし、食事を作ったりしていると、日はアツという間に過ぎ、盆と正月が一掃してきたような忙しさで、休みにはなりませんでした。

母はわたしが小学校4年生のときに病死したので、それ以来、母に代わって父と兄の面倒や家事をするのがわたしの役目でした。このような毎日でしたから家で満足に勉強した記憶はありません。父は飛び級で修猷館中学に入学した人でしたから「授業で先生の言われることを聞いていれば、家で勉強しなくても試験で困ることはない」と言うのが口癖でした。口返答はできませんので仕方なく勉強は



junko nagata
永田 順子
(53回生)

休み時間や通学の往復時間にしていました。

歩きながらの記憶法

後になって分かったのですが、歩きながら記憶するというのは理想的な記憶方法だったようです。試験のときに「アッ！これは大きな木の傍を歩いていたとき記憶したところだ」とそのときの情景が頭に浮かんで、不思議にその前後の記憶も甦ってスラスラと解答が出来た経験があります。学校のテスト番付はたいてい5番以内で、悪くても10番までに入っていました。

この記憶法で問題が多岐にわたるファイナンシャルプランナーの試験を一回で合格することができました。

女性初の副総務

部活動は1年生のとき英文タイプ部で、この経験は後になって大変役に立ちました。2年生のとき生徒会の学年委員に選ばれ、3年生では当時女子として初めての生徒会副総務に推薦されました。先生方は「今は学校と家庭をなんとか両立させているが、生徒会副総務を引き受けるのは無理ではないか」と心配されましたが、女性

初の役職であり「後輩のためにも」との思いで引き受けました。

就職と結婚は親の勧めに従いましたが、その後自分の希望を抑えることができず、運にも恵まれて父親が反対した東京での就職もでき、多年の念願をかなえることができました。商業高校での勉強は社会に出て大変役に立ちました。自分で保険代理店を法人化してP/L(損益計算書)やB/S(貸借対照表)に向かい合ったとき、仕事上お会いする社長クラスの方々との対話の中で、さりげなく簿記の知識を織り込んで信用され、有益な情報をいただきました。

人生は一期一会

仕事はいつも大変でしたが、高校時代の貴重な体験を思い出し、最後まで諦めず努力しました。結果はわたし自身が不思議と思うくらい順調で、所属会社のキャンペーンでは、全国1位、2位、4位と上位入賞を果たすことができました。お台場の高級ホテルの広い表彰会場では、多数の出席者の前で社長表彰を受けた感激は今でも忘れることはできません。

このような好業績の達成はわたし一人の力ではなく、福商出身をはじめ周りの方々の温かいご支援や激励があって成しえたことであり、深く感謝し有難く思っております。

人生、まさに「一期一会」であり、常に今わたしにできることは何かを考えながら生きています。

東京支部同窓会のご案内

日時 平成20年6月28日(土)
午後1時
場所 東海大学交友会館
東京都千代田区
霞が関3-2-5

TEL03(3581)0121
霞が関ビル33階

会費
男性 7,000円
女性 6,000円
101回生以降 2,000円
ご家族同伴
お一人につき 2,000円
お問い合わせ先
文京カテリーナ内片山紀男(59回生)

第39回 福商会ゴルフ大会のお知らせ

日時 平成20年9月25日(木)
午前8時スタート
場所 福岡カンツリー倶楽部
和臼コース
福岡市東区大字上和臼
1318-1

会費 3,000円
プレー費 12,500円(食事付)
お問い合わせは福商会事務局まで
092(711)9890

I love my family

今思う、..

国際結婚も また楽し!

中元寺 佳子(ヨシコ・ヒルマン)55回生



3年1組なかよしグループ。左から3番目が中元寺さん

子育て法に違い

私の半生は、40数年前に荒波を想像させる恐怖感や豪快さに魅入られたように始まった。様々な花が咲き誇る暖かい春のある日、今の主人と出合い、深い思慮もなく結婚。長女が誕生し、米国への移住もこの子のためにと躊躇なく決断。それから1、2年間は「号泣」の日々。後年、次女、三女を出産。祖国の異なる人種が集まり住むアメリカには、お人好しが多いが、一方弱い者いじめも多いと知り、子供達のために自然ときつい性格になった。娘たちを日本式にスパルタ教育すると、主人は米国式に泰然自若と加護するので、子育てでは相反。娘の3つの頭は混乱しつ放し、夫婦は口論。国際結婚の困難さを思い知る。

子供達の世話で明け暮れる初夏の日、忍耐に欠ける私が小さなことで腹を立て、興奮すると、口より(英語がでてこず)手が早く、その場にあって卵をケースごと投げつけて後始末に苦い思い。落ち葉で遊ぶ娘が男の子に石を投げられ、「コブ」を作った晩秋の日。その子の親に文句を言いに行つたつもりが、頭に血が上った口からは母国語で、「バカタレ」と一人笑ひ。結果は穏やかに解決。この世で武器より強いものは、優しさや笑顔と認識。

木枯らし吹く厳冬のある日、Jury Dutyの呼び出しハガキを受け取る。(米国民権を取得すると、裁判の審

判役に選ばれるために、色々な質問を受けなければならぬ)英語力がないと失格。自分が選ばれるとは思われないが、「英語が全く話せない」と少し嘘を。謙譲の美德でなく、面倒なことから逃げる手段。また便利なこと。日本の友達と、主人や主人の家族の悪口を本人の前で、日本語で堂々と言えたこと等々。習慣の違いや考え方の違いで失敗や困惑したこと多々。食べ物の違いでも常々不満。「違い」の故に色々な経験や苦勞をしたが、その中で言葉の違いが最大の不便。向上心に劣る私は、日本語も忘れ、英語も上達なしの今日。娘たちが小さい頃、「ハーフ」という負い目を背負わせた「己」を責めた時期もあったが、幸いいじめを受けなかった様子。神に感謝。

社会、他人に愛を

私がこの国で40年近くを生き証人は、並に成長した3人の娘たちと可愛い6人の孫たち。彼等に私の血統、足跡を残したこと。私は日本より米国の暮らしの方が長いのに、米国人になれず、かといって形式、習慣、礼儀、付き合いなどにうるさい日本では、もう暮らしにくいと思う。アメリカに住めば日本を恋し、日本で暮らせばきつとアメリカを懐かしむと思う。私の真の安住の地は?お陰で未だに大波に呑み込まれもせず、勤勉で善良



な主人がいたため、割りとな楽な米国での半生を与えられたが、運が悪ければ国際結婚の人生は、苦勞も倍増したはず。国際結婚の成功率は、33%位とのこと。やはり同国人、同人種と人生を共にする方が、よりよい一生を送れると実感。でも私に「人生を歩む道」を選ぶ機会をもう一度与えられたら...やはり私は同じ道を選ぶと確信。今度は家庭では良妻賢母で、社会にも他人に愛を広く、深く与えられる人になれるように努めながら歩きたい。

ニュージャージー州の南の小さな街ウイリアムスタウンより、神と主人に感謝しつつ。

高瀬 豊君 (55回生)



高校時代、対馬出身の彼は単身で下宿し通学していた。部活動はラグビー部で、いつも会うと「卒業

できたのは部の先輩、同期や友人のお母さんの温かい支えがあったから」と感謝の気持ちを忘れない。卒業後、対馬に帰り、民宿の傍ら釣り船案内やシカ撃ち猟の案内人をしていた。また、彼には渡り鳥の飛来を二瞬にして数千羽、数万羽を数えることが出来る特技がある。敵原町の内山峠は、日本一のアカハラダカ(小型の鷹)の飛来場所。中国、ロシア、朝鮮半島で繁殖し、越冬のため9月ごろ、対馬・九州を経てフィリピンなどの東南アジアへ数千キロの旅をする。

飛来時は朝4時半に家を出て、日の出から日没まで、10年間一人で観測してきた。これは町おこしのため、町の観光協会から委嘱を受け、彼が観測に当たることになった。アカハラダカの群れは上昇気流に乗り鷹柱をつくるといふ。それは壮観だそう。多いときには1日約3万羽から数十万羽を数えることもあるという。因みにタカは野の花が咲くのと同じで、旧暦で飛んで来るそう。NHKでも取り上げられ、当時は話題になった。今では対馬を離れ、福岡市での住まいとなったが、福岡でも特技を活かした活動をして欲しいと願っている。

後藤 幹生 (55回生)

徳安 隆君 (67回生)



博多うなぎ屋の名店「吉塚うなぎ屋本店」を家業に持ち、専務取締役の立場で店の繁栄に力を注ぐ。毎日を送っている。吉塚うなぎと言え、創業以来のほっこりとした、伝統の味を初代より受け継ぎ、脂ののりもほどよく焼きあげ、老若男女に幅広く愛されている人気店である。こここのうなぎの味、質、同様の素晴らしい人間性をも身につけているのが徳安隆君である。

家業のみならずその人望の厚さから、博多祇園山笠中洲流の取締であり重鎮の1人でもあります。同様に中洲地域の飲食関係者から信頼も厚く、ご意見番として人の輪をたばねることに大いに力を注いでいる。

今後は本店の建て替えを機に、老舗の味を守りつつ、ますますの発展を心から祈りたいものである。皆さんもどうぞ一度ご賞味下さい。

寺崎 裕幸 (67回生)

松本 清子さん (69回生)



在学中はソフトボール部に所属し「ボクちゃん」の愛称で親しまれていた。卒業後、母親の経営する食堂を

手伝っていました。父親と兄が経営する建設会社(土木、内装)に入り、平成9年には社長に就任し、良き社員にも支えられ頑張っています。短い髪に

作業服姿、一見男性と見間違えう彼女ですが、心根が優しく、面倒見の良い人情家です。

彼女のモットーは「元気で楽しく働こう!」で、家族のこと、社員のこと、そして友達のことをいつも心配しています。猫10匹以上を飼っている猫大好きな彼女に幸せあれ、と願っています。

有限会社 萬福商事
電話 092-761-3574

毛利 眞紀子 (69回生)

日野 孝治君 (77回生)



創業以来30年間、活きの良さと味を守り続けているのが、生け簀、寿司割烹「魚村」である。その2代目

社長として活躍しているのが、日野孝治君です。初代から引き継ぎ産地直送の魚介類を、心配りの行き届いたスタッフ力が力を合わせ、新鮮なうちに素早く料理し、お客様に提供することにより、より高い満足を与えているようである。そんな中、営業から買い付け、接客指導、時には社員の相談にも親身になって接し、毎日を忙しく送っている。なかなか出来る事ではない。

長年にわたって親しまれ、そして知名度の高い天神西通りから大名に移転する時は、相当の不安もあった事でしょう。しかしながら周囲の励まし、そして何よりも家族の理解を得られたことが一番の力となったようです。客商売においては「人を何よりも大切に」という考えを持っている人物です。今後は自分自身の健康にも気を配り、ますます

活躍され店の繁栄を祈りたいものです。

寺崎 裕幸 (67回生)

橋詰 京美さん (80回生)



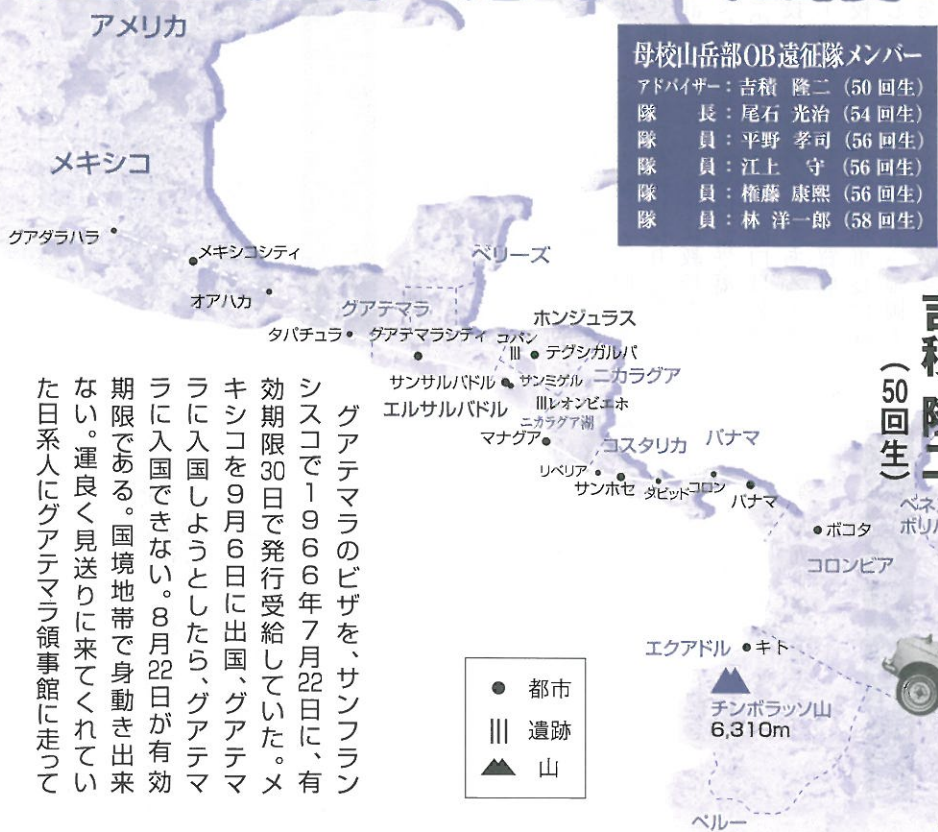
橋詰さんの声を聞いた人も多いと思いますが、RKBラジオなどに出演しています。エアロビクスインストラクター、スポーツクラブインストラクターを経て、現在、イベントMC、ラジオリポーター、ディレクターとしてフリーランスで仕事をしている。彼女は仕事に取り組み姿勢として「良い番組をつくるには、チームワークが大切です。主張すべきは主張し、譲るべきところは譲り...と、自分が何をすべきか、瞬時の判断力が大事ですね」と語ってくれました。この判断力が培われたのは「高校時代の3年間、ソフトボール部でキャッチャーだったことが役立つと思います」と大きな瞳で話してくれました。今は、仕事と同じくらい夢中になっているのが「アロマセラピー」とのこと。アロマセラピストを目指し始めて2年。「あと2年近くはかかりそう」とのことですが、常に前向きに取り組み姿勢は、彼女の大きな魅力かも知れません。「ラジオは顔が見えない人たちに情報を伝える仕事ですが、アロマセラピストは、目の前にいる方の手を取って伝える仕事です。大衆と個人、正反対ですが、それぞれに魅力に溢れた仕事だと思っています」と話す。これからのますますの活躍に期待したいものです。

川瀬 哲雄 (63回生)

国産車で5万キロ走破!

40年前に7カ月かけ 南北アメリカ 大陸縦断記 4

母校山岳部OB遠征隊メンバー
 アドバイザー：吉積 隆二 (50 回生)
 隊長：尾石 光治 (54 回生)
 隊員：平野 孝司 (56 回生)
 隊員：江上 守 (56 回生)
 隊員：権藤 康熙 (56 回生)
 隊員：林 洋一郎 (58 回生)



吉積隆二
(50回生)

グアテマラのビザを、サンフランシスコで1966年7月22日に、有効期限30日で発行受給していた。メキシコを9月6日に出国、グアテマラに入国しようとしたら、グアテマラに入国できない。8月22日が有効期限である。国境地帯で身動き出来ない。運良く見送りに来てくれたいた日系人にグアテマラ領事館に走って

● 都市
 ||| 遺跡
 ▲ 山



南北アメリカ大陸縦断の車

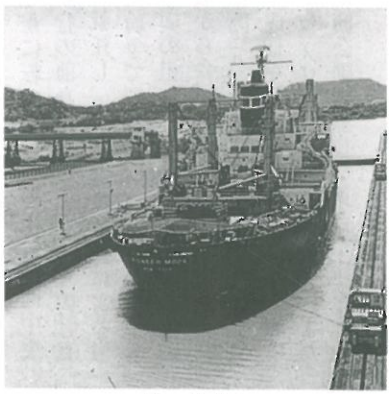
サンミゲルからホンジュラスに入国。コパンのマヤ遺跡等を見学しながら、首都テグシガルバへと向かう。9月11日ニカラグアに入国。レオンビエホ遺跡を散策しながら首都マナグアへと。ニカラグア湖を東に眺めながら9月14日に出国し、コスタリカのリベリアに入国する。9月15日は中米独立記念日。首都サンホセに滞在中の事だった。ヨーロッパ系の



パナマ・コロンの港で

もらい、2時間後にビザが発給され、入国する事が出来た。6時間ほど国境地帯で右にも左にも動けず、ほんとは冷や汗ものだった。
 9月6日グアテマラ入国。グアテマラ市に滞在2日間。9月8日出国。エルサルバドルの首都サンサルバドルに入国し、日本領事館に立ち寄りビザの確認。東京で発給してもらったパスポートは、通過国があまりにも多いため、余白が少なくなったので増ページの再発給をもらった。

民族が80%。美人の多い国でもあった。コスタリカは全体的に高地であり、気候も温暖で良質のコーヒーを産していた。9月16日コスタリカ出国。パナマに入国し、ダビッド・メサントイアゴ→チトレ、そしてパナマシティ。パナマでは陸路でのコロンビア入国は出来ないものと調査したが、ジャングルと湿地で現地のインディオすら通行する事はないとの事。予定のスケジュールでは若干の余裕もあったので、レポート等の整理。南米での計画を再度確認した。パナマ運河の東岸コロンからコロンビアのブエナベンツラへと客船が就航している。これを利用する事にする。またコロンには無税地区、いわゆるフリーゾーンがある。隊の金は使う事は出来ないから、個人の金でトラジャスタラジオを安価で仕入れて持ち出した。大きな声では言えないが、密輸であるものの、そんなに大量ではないので通関もクリア。



パナマ運河

次号に続く

福商100年史

9

黄金期の、卒業生たち

福商の輝く星

いろいろな分野で活躍した先輩たち

世紀をまたぐ福商の伝統は実業界を中心に幾多の人材を輩出した。以下に何人かの先輩達を列挙してみよう。

福岡大学発展の基盤づくりに貢献

溝口 梅太郎 (10回生)

福岡商業を首席で卒業し、その後、日本硝子会社を興した。大正10年西南学院高等部が開設されると会社を辞めて入学。卒業後は同高等部の講師の傍ら九州大学の聴講生として勉学を続けた。昭和3年に西南大学の教授になり、簿記、会計学を教えた。8年に教授を辞して福岡高等商業学校(現・福岡大学)の創立に関わった。溝口は私財を投じて、現福岡大学がある七隈の土地、約二万七千坪を買収して学校に提供。9年には理事長に就任して学校経営に当たり、福岡大学発展の基盤づくりに貢献した。現在、福岡大学本館前に溝口の胸像がある。

参議院議員二期務めめる

常岡 一郎 (16回生)



卒業後、慶応大学理財科(現経

弁護士として活躍

秋根 久太 (19回生)



福商時代、法律を教えていた東大出身の佐藤守先生の授業で「法治

国家だから法を知れ」の教えが人生の岐路となった。明治大学法学部に学び、昭和5年に司法試験合格。その後、東京第二弁護士会副会長、日弁連理事などを歴任。昭和49年には勲四等瑞宝章を受賞した。昭和53年から平成5年まで福商会東京支部長として16年間世話役を務めた。

独学で絵画の世界に

太田 嘉兵衛 (17回生)

父親は第4代校長の太田徳次郎。1920年(大正9年)に福商卒業後、住友銀行福岡支店に勤めた。学生時代から絵が好きで、独学で学ぶ。1931年(昭和6年)に西公園を描いた「樹間」で帝展(現日展)に初入選。その後銀行を辞めて絵に専念、作品は風景を主にした。

帝展(現日展)連続9回入選

青柳 喜兵衛 (20回生)

福商在学中から油絵や詩を作る。早稲田大学商科に進み、在学中に早大絵画会を結成し川端画学校に学ぶ。大正15年、22歳のとき「秋芳麗姿」で帝展初入選、以後連続8回入選。昭和の初め福岡日

銀行を再建

中山 一三 (25回生)



昭和3年、福岡銀行の前身である十七銀行に入り、合併で

福銀に。38年常務、45年に九州倉庫専務に転出した。翌年に福岡中央銀行の前身である正金相互の社長に就任し、当時、合併問題による労使紛争で揺れていた同社を再建し、中興の祖といわれている。58年に頭取から会長に就任。平成元年から在福岡ニュージランド名誉領事に就き、平成10年には、ニュージランド政府から、メリット勲章を受章した。また福商会副理事長を長らく務めた。

日新聞(現西日本新聞)連載小説「夢野久作の「犬神博士」など4作家の挿絵を描いて読者の人気を呼んだ。

昭和12年新文展(旧帝展)無鑑査。画家として活躍する一方、詩作にも才能を示し、詩誌「とらんしつ」との同人となり、表紙絵を描く一方、川端生樹のペンネームで詩作を発表、同14年に詩画集「牛乳の歌」刊行。母校福柳に青柳の作品「紙風船」がある。また北九州市立美術館は「天翔ける神々」など青柳の作品25点を所蔵している。

さくら会便り

「さくら会」
こんなことしています

さくら会が結成されて、はや3年目を迎えました。毎月、福商会館で定例会を行っており、そのいくつかを紹介いたします。

1月17日は「気楽な勉強会」を開催しました。ゲストは博多工業高校の宇土健治教頭先生(66回生)をお迎えし、「Fukusho108年過去現在そして未来へ」のテーマで「福商」から「福翔」へのエピソード、これから「母校」への期待や目標と多岐にわたり興味深く、楽しく聞かせていただきました。話を通じて感じたことは、母校に対する熱い思い、大切に思う心でした。私たちも「さくら会」を通じ、母校への恩返しが少ないでもできたらとの思いを強く持ちました。

2月8日「第5回福商縦の糸の会」に参加しました。「さくら会」からは、今年の干支生まれの皆様へ「花一輪チユリッ」をプレゼントしました。この企画も定例会で出されたもので、「12年に一度しか巡ってこない干支！素敵な年でありますように」と願いを込めたメッセージを添えて贈りました。どうぞ皆様も「縦の糸の会」へのご参加をお願いいたします。

これからも「さくら会」は「福商会をもっと知って楽しもう」「仲間づくりOB会つてな〜」をテーマに、盛りだくさんの活動を予定していますので、皆様のご参加を心からお待ちしています。

今後のスケジュール

7月17日(木)「気楽な勉強会」
10月25日(土)「出光大先輩を学び、福翔高校の今を訪ねる旅(仮称)〜日帰りバスツアー」



子年生まれの人たちに
さくら会から「一輪の花」のプレゼント

坂本さんが、「健康生きがいづくりアドバイザー」功労賞を受賞



坂本徳俊さん(54回生)が3月31日、厚労省の認定団体「財団法人健康・生きがい開発財団」から表彰を受け、報告に来館されました。これは高齢化社会における中高年齢層の健康・生きがいづくりを支援する目的で設立され、今年で設立15周年を記念して行われたものです。

坂本さんは長年アドバイザーを養成する講師として活躍されており、全国4500名のアドバイザーの中から、実績が認められ選ばれました。

松田茂實さん 2人展を開催

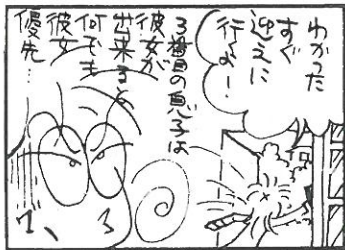


第5回新作能面公募展で佳作入選
作品「大癡見(おおべしみ)」の前で

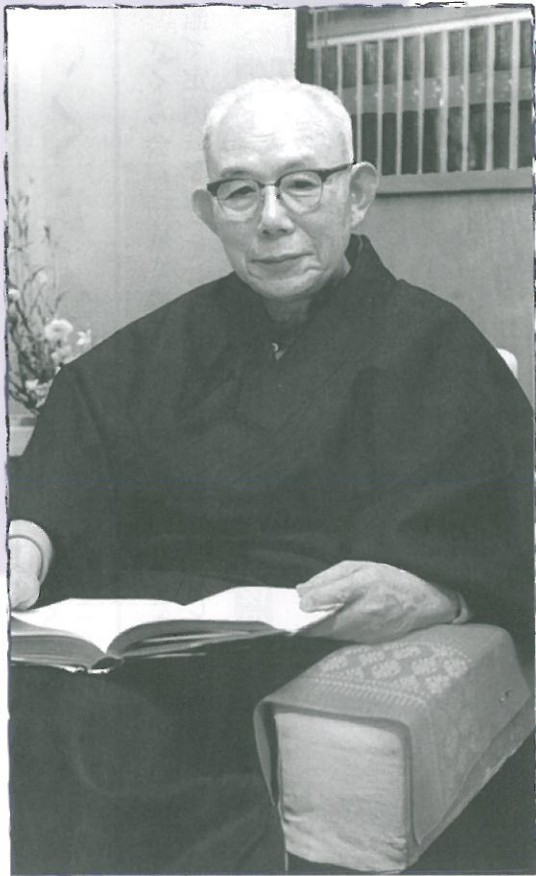
松田茂實さん(54回生)が4月8日〜13日に福岡県立美術館で「能面と水墨画の世界2人展」が開かれました。松田さんが中学時代の友人と定年後のライフスタイル、また古希を迎えることから、人生の1ページの区切りとして企画されたものです。

元々、能面に興味があり、定年を機に

73回生立花です



作品の制作に
かかると、今年
で10年目にな
るそうです。
これからの制
作意欲も旺盛
で、豊かな人
生を送られて
いるようです。



昭和49年(1974)4月 71歳

福商が生んだ 世界的 経済学者

柴田 敬博士(18回生)

kei shibata (1902~1986)

はじめに

introduction

福商会報は「福商100年史」を連載して、各界で活躍された母校の先輩たちを紹介していますが、20余年前に亡くなられた柴田敬京都大学教授のことを調べ、改めてこの先輩が日本を代表する世界的経済学者であったことを知りました。そこで、ぜひ、卒業生や福翔生に柴田先輩の素晴らしい業績をお伝えしようと、関連書物や資料を集め、西日本新聞社社友の武富一彦氏にこの一文をまとめて頂きました。

安河内眞彦(52回生)

遺産の総てを学問に

柴田敬先輩は、1902(明治35)年に福岡市春吉で生まれました。父の柴田治三は明治憲法の起草者として名高い金子堅太郎と共に中央で活躍した財界人で、6人(男2人、女4人)の子福者。先輩が、その4番目に次男として生まれた頃には、土地造成事業を手掛ける博多土地株式会社の社長でした。

先輩は、福岡市春吉小学校で6年間を通して級長を務めるなど学業成績に秀でた少年でした。旧制福岡市立福岡商業学校(現福岡高校)の卒業は1921(大正10)年でしたが、先輩は卒業生総代として太田徳次郎校長の前で答辞を読んでいます。

山口高等商業学校(現山口大学経済学部)へは無試験入学、同校2年生からは特待生でした。山口高商では作田莊一教授の門下生として理論経済学、特に貨幣論を学びましたが、経済学者を志した裏には次のようなエピソードがありました。

「私が山口高等商業学校に入った大正10年の夏に父が亡くなり、相当の金額の遺産をもらった。・・・博多の街を歩いていたら、私が卒業した福岡商業の校長先生に出会い、久しぶりだということでレストランに連れて行かれた。先生は「遺産をもらったそうだが、一体いくらもらったんだ」と聞く。金額を言うと『悪いことは



大正10年(1921)18歳 福商卒業時

言わぬから、そのお金で芸者遊びをしたまえ」と言われた。この校長先生は太田徳次郎という人で、禪に凝っておられた。

私は、先生の言葉には、何か別の意味があるのだろうと、後でいろいろ考えてみた。

その結論は、こうだった。それは大金だけれども、お金を守るために一生を使うようなバカなことはやめよ、金のことは忘れてしまえ、むしろ使ってしまった、男として為すべき仕事に精進せよ、ということではなからうか。(中略)

とにかく、私は、何のためにこれだけの大金を使うのか、と考えた。そしてこういう結論に到達した。私は商業学校の頃、随分経済学に興味があつて勉強した。高等商業に入っても勉強している。大正10年という年は、実は日本における第一次大戦後の大恐慌の翌年にあたる。世界的にいうと大正10年が大恐慌。その恐慌がどうして出てきたかということを学校の講義でもときどき聞いていたが、私には「これは貨幣と関係がある

のではないか。貨幣の供給が少ないからこうなったのじゃないか」という感じがあった。そこで、こういう問題を、この遺産を使って徹底的に研究して、行く行くは経済学者になろう、と考えた」(柴田敬著『経済の法則を求めて』)

マル経、 近経の融合図

そこで、山口高商を卒業すると、京都帝国大学(現京都大学)助教に転じた恩師・作田教授の後を追うようにして京大経済学部に入學しましたが、講義は高商時代に学んだことの繰り返しでしたし、マルクス経済学、近代経済学のどちらにも満足できず、最高学年の3年になって、マルキシズムを批判するにしても根本から学び直さなくては駄目だと考え、マルクス経済学のリーダーだった河上肇教授のゼミで『資本論』の輪読に加わりました。

河上教授は徹底したヒューマニストで、ことごとに対立した議論を述べた柴田先輩の裏表のない態度を歓迎されたそうです。

しかし、資本論の迷路与矛盾とに振り回され、大学の3年間では、ほとんど得るものがなかったと感じ、学者になる自信を半ば失って、1927(昭和2)年の京大卒業と同時に兵役に就きました。そして、行軍の休憩中に「資本論の本当の強

みは、労働価値説ではなく、第2巻の再生産範式にあるのではないか」という考えがひらめき「あれを徹底的に勉強してみたらマルクスの良さが分かり、それと近代経済学との総合も可能になるのではないか」と思いつくのです。

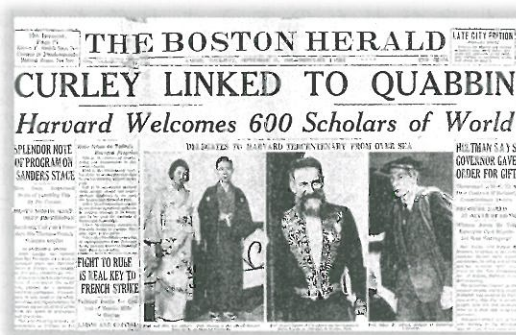
矢も盾もたまたまなくなつて作田助教に「大学院に戻りたい」と手紙を書き、10カ月の兵役を終え、1928(昭和3)年の4月から大学院に入り、貨幣に関する研究が評価されて翌年4月には早くも京大経済学部講師に抜擢されています。当時の京大はもちろん、現在でも、大学院に1年いたただけの講師登用など稀有のことで、全学的な話題になったそうです。

1931(昭和6)年には助教に昇進し、その間に高田保馬教授からローザンヌ学派の一般均衡論を学び、マルクスが提起した諸問題を一般均衡論で説明し、経済学博士号を取りました。その成果を京大の機関誌『経済論叢』に、また、その英訳を同大学の欧文雑誌『The Kyoto University Economic Review』誌上に発表し、国際的に高い評価を得ています。

1935(昭和10)年から翌年にかけて、それらの論文を集大成した名著『理論経済学』全2巻を刊行し、その後、アメリカ、イギリス、ドイツなどに遊学して世界のトップレベルの経

済学者たちと交わり、共同研究や討論を重ねて高く評価されました。

特に黄金時代を迎えていた米国のハーバード大学では、近代経済学の旗手といわれたシュンペーター教授のゼミで、サミュエルソン、レオンチェフ、スウィージーや日本からの都留重人(元一橋大学学長)ら先進的な学



昭和11年(1936)9月
ハーバード大学300年祭に京都帝大代表として出席
翌日のポストン・ヘラルド紙

シュンペーター教授とは、同教授が神戸大学の客員教授をしていた1931(昭和6)年、京大が賓客として京都見物に招待した際、柴田先輩が案内役を務め、貨幣の主観価値の有無について議論して以来の知り合いで、そのとき「シバタをなぜ講師のままにしておくのか。何か特別な理由でもあるのか」と高田保馬教授に柴田先輩の助教推薦を示唆してくれたほどの信用ぶりでした。

ケインズとも論争

シュンペーター教授は当時「景循環論」の最後の仕上げにかかつていて、十分な議論は出来ませんでした。が、「ハーバード大学大学院の秀才、ツルに君の世話を頼んでおいたから」と、のちの都留重人博士を紹介してくれ、都留博士は柴田先輩と互いに認め合い、切磋琢磨し合う終生の友人となったのでした。

しかし、都留研究生はもちろん、シュンペーター教授にも「資本主義経済の運動法則を究めたい」と志すが、それが出来なくて行き悩む柴田先輩の苦悩は解決してもらえなかったのです。

当時は、ハーバードでも、若手の学者たちの間では、ケインズの新理論が「ケインズ革命」と形容されたほどの大流行で、柴田先輩も関心を持って勉強し始めたのですが、先輩は「ケインズ理論には、貯蓄と投資が一致する時期のあいまいさなど、どこかに極めて不健全なところがある」と感じ、直接会って確かめようと、米国からの帰途に英国に立ち寄り、滞米中に親しくなったワシントンの斎藤博士に紹介してもらったロンドンの吉田茂大使(のちの総理大臣)に仲介を頼みました。

ケインズは、近代経済学の父と呼ばれ、世界の経済界に大きな影響を与えた『一般理論』を出版したばかりで、肩で風切る勢いでしたから、日本

の権威ある学者の中にも、彼と会見を申し込んで門前払いを食った人が少なくなかったようです。吉田大使の威光は大したもので、見事会見に成功し、その結果を論文にまとめ、京大の『欧文紀要』に発表。「日本人としては、ただ一人だけケインズと議論らしい議論を行った経済学者」（伊東光晴京大名誉教授）としてすっかり有名になりました。

自分の研究の進む道を模索しながら世界を巡った柴田先輩は、周囲からは高い評価を受けながらも、自分で踏み込んだ経済学の迷路から脱出する決め手を見出しえないまま、



昭和13年(1938)3月24日
ウィーン シェーンブルーン宮殿で

1939(昭和14)年に帰国します。帰国すると、すぐに京大教授に任命され、戦時中は政治的な活動と全体主義的経済理論の樹立に努めました。

例えば「資本主義経済が独占化すれば、必然的に利潤率が低下する」ことを数式的に証明し「独占資本が戦争を利用して強化されれば、その結果として一般利潤率を低下させる力が、ますます強く作用し始める。独占資本がその力の作用を避けようとすれば、国民大衆の生活に重圧がかかる。この道を進んで行けば、日本の崩壊は不可避だろう。日本を救う道は、戦争を食い物にしている独占資本主義体制そのものにメスを入れ、総ての人間が自分自身の問題という実感をもって国難に当たり得るような経済体制をつくることではないか」といった学理に基づく日本経済革新案を近衛文麿公(戦前、戦後に3度首相)に建言したりしましたが、いずれも成功せず、学者として政治に関わることの空しさを思い知らされることになったのです。

「壊禍の法則の先見性」

敗戦後の1946(昭和21)年に京大経済学部の特任教授全員が戦争責任をとって辞任しました。柴田先輩も同調して教授を辞任しています。そんな先輩に対して連合軍総司令部は公職、教職からの追放で追い討ちをかけます。戦争中も激動する環境の中で学者の良心を貫こうとした先輩の行動は、一方的な強権の前に踏みじられたのです。

学界を追われた先輩は、千葉県で

慣れない開拓事業などをしていました。が、トラックの修理をするうち蓄電池の発明に成功、その事業化に努めるなど、畑違いの方面にも進出する器用さを発揮しました。しかし、しよせんは、武家の商法でした。

この食い詰り生活に追われていた雌伏期に温めていたのが「壊禍の法則」です。近代産業文明は鉄や石炭や石油の文明で、鉄鉱、石炭、原油を生産したことになるのですが、これは米や麦の生産と同じではありません。「米、麦の場合は、生産に役立つ地力は失われずにある。ところが鉄や石炭や原油は、一度生産すると、大地の懐から永久に失われてしまう。まさに食いつぶされたのである」という観点から、柴田先輩は「いま仮に実質資金や労働強度や1日当たりの労働時間などが変化しないとすると、必要労働が不断に増し、利潤率が不断に下がって、やがてゼロになる。だが、利潤率がゼロになったからといって、資源の食いつぶしが止むわけのものではない。(中略)現状を維持して行くだけでも鉄や石炭や原油は採掘しなければならぬのだ。しかも利潤率は長期間にわたってマイナスであることはできない。とすると、利潤率が一度ゼロになってしまえば、それ以後は、労働者が生活程度を引き下げるか、労働を強化するか、1日当たりの労働時間を延長するか、しなければならなくなる。しかも、それには、どこで止まるという限界はない」

(前出「経済の法則を求めて」)

天然資源を食いつぶすことで成り立つ経済の根底には、このような「禍根」が潜んでいます。「経済学は当初からこの法則を見落としていた」と先輩は「壊禍の法則」を説き起こします。世界的な公害の拡大、資源枯渇、原油、鉄鉱石の高騰などの現状をひきあいに出すまでもなく、戦後の混乱期に、いち早く、この経済法則を説き始めた柴田先輩の慧眼と恐るべき先見性には驚かされます。

「学界で不動の評価」

先輩は、1951(昭和26)年に追放解除になると、翌年には学界に復帰し、山口大学、青山学院大学で教授、学部長などを務め、多数の後進を育成しました。また、故郷への思いから九州産業大学でも一時、経済学を講じたことがあります。

この間「地球破壊と経済学」(1973年)「ケインズを超えて」(1976年)「英文」「転換期の経済学」(1978年)「経済の法則を求めて」(同)などの論文や著書を意欲的に世に問うています。



真の経済学者として

都留重人博士は「現代経済学の群像」(岩波書店)の中で「日本には『経済学学者』は多いけれど、経済学者は少ないのではないか。つまり外国の著名な経済学者の著書や論文を、横のものを縦にする形で発表する学者は非常に多かつたけれども、自分で独創的に問題を展開して、世界の経済学界に二石を投じるような人は、比較的少なかったのではないか」と述べ、代表的日本人の経済学者として、柴田敬と安井琢磨の二人を登場させた。特に柴田敬博士を「日本の経済学者の中では、珍しく、どこまでも自分の頭で考えて発想する態度を貫き、通説がどうであれ、自分が考え抜いたことが真理であるという確信を常に持ち続けた理論家であるという点は、



パイル教授夫妻と都留重人氏
ケンブリッジ、マサチューセッツ

多くの人が認めるところであろう」と絶賛しています。

また、日本経済評論社の『日本の経済思想2』第10巻では、責任編集者の鈴木信雄博士が「戦前、戦中という理不尽で過酷な時代を、少年として、あるいは第一線の研究者・実践者として強靱な精神力と知性によって生き抜き、戦後という惨憺たる時代を、思想的、理論的、そして実践的に切り開き、昭和と言う時代を支えてきた様々な思想的・理論的立場に立つ経済思想家たち」の代表の一人に柴田先輩の名を挙げ、その第4章に根岸隆氏が44ページを費やして「国際的に評価された最初の経済学者」として柴田先輩の学説の特徴や評価などを詳しく紹介しています。

経済理論は第二次世界大戦後に目覚ましい発展を遂げましたが、日本からの国際的な貢献は「一般均衡理論分野で最も目立っていた」といわれています。それは、もちろん戦前の先駆的な諸研究の土台の上でこそ初めて実った成果だったのですが、そんな土台の一角を築いたのは、京都大学の高田保馬、柴田敬、青山秀夫の三博士の研究成果だったとされており、中でも柴田博士の研究は、すでに戦前から国際的に著名だったといわれています。

また、1988(昭和63)年に刊行された「ニュー・パルグレイヴ経済学辞典」では人名項目に、たった5人の日本人経済学者の一人として、柴田先輩がとりあげられています。

柴田経済学よ永遠に



昭和57年(1982)4月29日 勲三等瑞宝章受章
国立劇場の前で宮城を背景に 79歳

柴田先輩は1986(昭和61)年に83歳で亡くなりましたが、追悼文集『大道を行く』(公文園子編)には都留重人、杉原四郎、ブロンフェンブレナー、伊東光晴、置塩信雄、根岸隆といった経済学界の重鎮や『エコノミスト』誌に先輩の回想記(聞き書き)をまとめた荒井忠男氏ら同輩や後輩、門下生、近親者を含め実に130人もの方々が故人の業績や思い出を語っています。

石井公代先輩(20回生)は、福商、山口高商で柴田先輩の2年後輩でしたが、追悼文の中で「勉強ぶりには舌を巻いた(山口高商時代には)すでにアダムスミスの『国富論』を英文1000ページの原書で読破されていた」と、若き日の思い出を綴っています。

柴田先輩は、生涯に22冊の単行本の歴史に関する理想主義的哲学にまで及ぶ広範囲なもので、私たちは、そこに、専門分野だけに閉じこもることなく、文字通り学際的、国際的な視野から持論を展開し続けられた柴田先輩の業績をつぶさに跡付けることができます。

と122編に及ぶ貴重な論文を残しました。そのテーマは、経済学の理論的、実証的な諸問題にはじまり、資源環境問題の見地からの現代経済学批判、さらには人類

の歴史に関する理想主義的哲学にまで及ぶ広範囲なもので、私たちは、そこに、専門分野だけに閉じこもることなく、文字通り学際的、国際的な視野から持論を展開し続けられた柴田先輩の業績をつぶさに跡付けることができます。

参考文献

- 一、大道を行く
柴田敬追悼文集(非売品)
- 二、経済の法則を求めて
柴田敬著(日本経済評論社)
- 三、日本の経済思想2
鈴木信雄責任編集
(日本経済評論社)
- 四、現代経済学の群像
都留重人著(岩波現代文庫)

会費納入者

(平成19年12月から平成20年3月までご入金の方)

長期納入者

45年度まで

41年度まで

38年度まで

35年度まで

34年度まで

33年度まで

32年度まで

31年度まで

30年度まで

29年度まで

28年度まで

27年度まで

26年度まで

25年度まで

24年度まで

51三原 一枝
52川西加代子
53原田 知子
54山下 博司
55村上 好人
56南原 茂
57船越 一人
58佐藤 孝
59長 善三郎
60龜岡元二郎
61雨森 豊
62津上 明一
63船越 光敏
64中山 博文
65森上 博次
66小野 勇夫
67池田 理恵

55川西加代子
56藤原康次郎
57藤野廣次郎
58中村 良雄
59大神 芳賢
60深川 甚一
61落合 二男
62橋本 幸男
63原田 尚一
64安川 正之
65今林 末信
66三木 剛
67山崎 輝喜
68合屋丑之助
69築地 幸幸
70原田 悦生
71高倉 賢一
72古賀 義孝
73藤木マサヨ
74森原 政枝
75山下 萬里子
76福井 圭佐
77伊藤 恭介
78田部 篤三郎
79仲村 妙子
80田中 規子
81安河内さおり
82河津 寛子
83藤田新一郎
84上野 咲紀

44林 千之介
47須原 春雄
48高木 正士
49中山 敏昭
50池田三郎典
51牛田 英男
52中島 勝敏
53森 眞一
54下ヒロコ
55印藤 昌修
56百田 眞弘
57秋田 嘉一
58一柳 英子
59進 九三郎
60古川 伸子
61吉武 政昭
62園田 彰文
63中野 清志
64奥野 俊明
65宮崎 順治
66安光 俊雄
67磯 博子
68磯 博子
69木崎美和子
70水 美幸
71野田 敏子
72中野貴久子
73奥山 俊英
74林田三津子
75西本美恵子
76老松 達子
77原口 勇貴

44梅津 和義
45川野 眞典
46原 謙一
47藤原 國夫
48山本 素夫
49荒卷 弘祐
50米沢 二郎
51藤隈 素夫
52藤原 謙一
53原 朝代
54小嶋 一幸
55岡田 雅晃
56山中 和光
57伊藤 俊治
58境 輝幸
59和氣 横子
60高澄 親雄
61眞子 紀男
62山口 利彦
63麻生 孝夫
64重田 操樹
65屋敷 憲次
66河原 重勝
67善生 喜利
68濱田 生子
69足立 泰樹
70小久保政門
71谷岡 正肇
72植崎 展道
73鳥山 昇
74松下 嘉雄
75眞鍋 眞清
76内富 眞郎
77猪口 眞一郎
78椎木 弥一
79松下栄三郎
80宮本良一郎
81和田 勲
82荒井 昌夫
83西野 達美
84相川 善治
85西島 善明
86堺 善起
87堺 淳
88柴田 満
89藤野 光枝
90藤野 光枝
91柴田 光枝
92田村 栄二

49今村 和雄
50加茂川仁巳
51松田 俊美
52古川 吉雄
53村上 廣清
54上野 善堂
55上野 照馬
56石田 洋一
57岡部 保登
58津田 達昭
59藤原 若子
60渡辺 良江
61内山 武
62甲能 健治
63藤 福男
64中村 順二
65花田 義和
66藤山 嘉郎
67上田 弘
68柿沼 宏行
69谷口 英彦
70三嶋 清児
71山内 治
72山内佐恵子
73三枝 桂
74松尾 隆徳
75安武 博文
76牛房 三子
77中尾 三子
78松本 千宣
79上岡 清彦
80中村 正和
81日永田カツ工
82安武 真明
83池田 和彦
84三木 晃
85宮本 政則
86井上 光子
87中尾 光子
88中村由美子
89峯 記代子
90戸川 英二
91富永 泰誠
92松岡 瑞
93村津 茂
94黒木エミ子
95重藤 千鶴
96石井 一雄
97吉田 元生
98吉田 昭幸
99角田 満子
100満生 博文

53三好 淳悟
54入江 陽子
55内田ミサ子
56梨里 博子
57上田 英喜
58草場 米治
59福田 静子
60森永恒次郎
61永島 信夫
62橋本 信夫
63今村 和子
64松本 泰助
65高尾 信忠
66坂本 昭子
67野依 節子
68明永 義光
69小西 幸治
70水 新一
71長野 義亮
72妹尾幸子
73上木 政章
74坂井美智子
75高田 芳昭
76清田 昭
77波多江隆幸
78小川 修司
79有吉 博司
80麻生 雅司
81石川 圭祐
82関 龍祐
83高木美紀子
84尾崎 裕光
85彌永 明美
86野田まゆみ
87西野 健司
88長野 祐子
89梅崎 直子
90堀崎 敦子
91浦塚 健二
92坂井 貴浩
93坂井 貴浩
94林 優介
95佐々木忠雄
96城戸 長藏
97大山安太郎
98大須賀眞一
99安河内重彦

49大村 茂男
50横田 尚正
51立石 清志
52天野 敬造
53川本 義男
54早川 清風
55高城 貞夫
56藤野 邦男
57藤野 正男
58古賀 祥三
59井原 道子
60秋山 肇
61井久保説男
62西岡 範陸
63西岡 範陸
64橋本 好博
65宮崎 武士
66宮村 恒喜
67花田 静夫
68渡邊 緑郎
69藤 誠一
70藤田 辰男
71藤原 聡介
72遠藤隆太郎
73金堂 義昭
74村上 善光
75森 未俊
76久我 輝和
77箱島 秀治
78板東 勇藏
79古屋 恒男
80西嶋三七男
81安恒 秀生
82山内 卓美
83門田 總
84古藤 清男
85比良松直城
86西頭 光次

49内田 繁樹
50空閑 謙二
51幸若 久義
52進藤 豪
53波瀬 要一
54新原 茂美
55新田 邦男
56藤野 芳宣
57藤野 建次
58山根 義三
59安土 博章
60上田 勝子
61小島 眞子
62秋山 肇
63井久保説男
64入江 英雄
65小西 廣和
66木村 公英
67白垣 直彦
68西田 直彦
69平田 豊喜
70船津 隆夫
71丸島 季隆
72丸島 昌直
73山田 重明
74吉安 信
75吉田 敏雄
76井上 敏雄
77河野 雅之
78山下ケイコ
79榑井 茂子
80榑井 弘子
81池 啓介
82北尾 啓弘
83久芳 正弘
84武富 清
85藤崎 繁
86本村由美子
87宮田 信
88森 京子
89吉田 時子
90伊藤 正宏
91前田 宏紀
92田中 武
93高田 純子
94永田 順子
95海老塚健二
96加月脩二郎
97小久保勝昭
98富永 泰輔

49中野 征邦
50山下作次郎
51石寄純恵子
52高木 純子
53松井美美子
54宮田 隆
55宮川 隆
56大神トク子
57大里那華子
58川波美智子
59羽野 恭子
60山田美智子
61深川 隆基
62磯田 一徳
63江崎 征二
64小川 茂
65栗山 茂
66末安馮一郎
67吉田 茂文
68吉永 祥一
69阿部 豊子
70角倉伊津子
71寺崎 陽子
72山下 速子
73吉永マサ子
74進藤 大義
75豊福 勝彦
76益井 健
77山本 勲
78峯元 勝俊
79朝倉ト子
80畑野 行子
81樋口千鶴子
82藤崎七三郎
83下田 弘美
84國崎美智子
85青合 昇
86井上 清
87三浦千鶴香
88水 利枝
89辻 正行
90秋吉 年春
91泉 栄之助
92岡本 光史
93熊本 勝信
94清水 勝人
95白木 英治
96長野 哲也
97安河内孝好
98井上三枝子
99岸川 博義
100前野 安夫
101森山 良作
102玄元 博子

49長谷川紀枝子
50中山 一史
51國崎 學
52宮川 隆
53宮田 隆
54大神トク子
55大里那華子
56川波美智子
57羽野 恭子
58山田美智子
59深川 隆基
60磯田 一徳
61江崎 征二
62小川 茂
63栗山 茂
64末安馮一郎
65吉田 茂文
66吉永 祥一
67阿部 豊子
68角倉伊津子
69寺崎 陽子
70山下 速子
71吉永マサ子
72進藤 大義
73豊福 勝彦
74益井 健
75山本 勲
76峯元 勝俊
77朝倉ト子
78畑野 行子
79樋口千鶴子
80藤崎七三郎
81下田 弘美
82國崎美智子
83青合 昇
84井上 清
85三浦千鶴香
86水 利枝
87辻 正行
88秋吉 年春
89泉 栄之助
90岡本 光史
91熊本 勝信
92清水 勝人
93白木 英治
94長野 哲也
95安河内孝好
96井上三枝子
97岸川 博義
98前野 安夫
99森山 良作
100玄元 博子

・上記期間(平成19年12月～平成20年3月)外に、既に長期分を納められている方は毎年9月号でお知らせいたします。

平成19年度会費納入者

(平成19年12月から平成20年3月までご入金の方)

- ③有家 初美
- ④岸田 中男
- ⑤五郎丸 守
- ⑥池田富美子
- ⑦権藤かおる
- ⑧榎永 恵子
- ⑨寺崎 裕幸
- ⑩森 誠二
- ⑪吉田能里夫
- ⑫川嶋ふみ子
- ⑬堺 和美
- ⑭塩屋志津子
- ⑮坪井喜代美
- ⑯藤野 明美
- ⑰前門 和江
- ⑱吉田登志夫
- ⑲桑後合幸則
- ⑳萩尾美恵子
- ㉑村上 雅洋
- ㉒栗原 充
- ㉓西口 勲子
- ㉔大野 詠子
- ㉕吉村 寿昭
- ㉖武本 浩美
- ㉗前門須美子
- ㉘吉良 渡
- ㉙安永 節子
- ㉚萩尾美恵子
- ㉛桑後合幸則
- ㉜村上 雅洋
- ㉝栗原 充
- ㉞西口 勲子
- ㉟大野 詠子
- ㊱吉村 寿昭
- ㊲武本 浩美
- ㊳前門須美子
- ㊴吉良 渡
- ㊵白垣真由美
- ㊶田浦 秀樹
- ㊷末廣 律代
- ㊸川附 健一
- ㊹金澤 美香
- ㊺須藤 健夫
- ㊻橋岡 絢子
- ㊼阿部美沙希
- ㊽成清 曉子
- ㊾安永 節子
- ㊿萩尾美恵子
- ①田浦 秀樹
- ②末廣 律代
- ③川附 健一
- ④金澤 美香
- ⑤須藤 健夫
- ⑥橋岡 絢子
- ⑦阿部美沙希
- ⑧成清 曉子
- ⑨安永 節子
- ⑩萩尾美恵子
- ⑪田浦 秀樹
- ⑫末廣 律代
- ⑬川附 健一
- ⑭金澤 美香
- ⑮須藤 健夫
- ⑯橋岡 絢子
- ⑰阿部美沙希
- ⑱成清 曉子
- ⑲安永 節子
- ⑳萩尾美恵子
- ㉑田浦 秀樹
- ㉒末廣 律代
- ㉓川附 健一
- ㉔金澤 美香
- ㉕須藤 健夫
- ㉖橋岡 絢子
- ㉗阿部美沙希
- ㉘成清 曉子
- ㉙安永 節子
- ㉚萩尾美恵子
- ㉛田浦 秀樹
- ㉜末廣 律代
- ㉝川附 健一
- ㉞金澤 美香
- ㉟須藤 健夫
- ㊱橋岡 絢子
- ㊲阿部美沙希
- ㊳成清 曉子
- ㊴安永 節子
- ㊵萩尾美恵子
- ㊶田浦 秀樹
- ㊷末廣 律代
- ㊸川附 健一
- ㊹金澤 美香
- ㊺須藤 健夫
- ㊻橋岡 絢子
- ㊼阿部美沙希
- ㊽成清 曉子
- ㊾安永 節子
- ㊿萩尾美恵子

- ①柴田 真弓
- ②亀田 敬子
- ③田中 潮美
- ④長野千鶴子
- ⑤堤 紀美子
- ⑥西嶋 和子
- ⑦松崎 恵子
- ⑧川上 友子
- ⑨鈴木 弘子
- ⑩因幡 範幸
- ⑪林田真理子
- ⑫林田真一郎
- ⑬蛭川千香子
- ⑭西垣美樹子
- ⑮谷口 政幸
- ⑯永翁 利成
- ⑰有澤 弘子
- ⑱虎谷 恵子
- ⑲井上 康夫
- ⑳堺 英一
- ㉑長丹 光之
- ㉒日野 孝治
- ㉓無津呂繁徳
- ㉔清水 靖子
- ㉕井上 麗子
- ㉖無津呂実紀
- ㉗松尾 昌也
- ㉘団 美紀
- ㉙榎藤 学
- ㉚高野 匡之
- ㉛酒井由佳理
- ㉜石井 雅太
- ㉝石橋 裕明
- ㉞平田 紀子
- ㉟林田 直子
- ㊱松尾 英治
- ㊲眞庭 城聖
- ㊳神鳥 芳恵
- ㊴白水登一郎
- ㊵堀田 耕二
- ㊶水田 薫
- ㊷中村 誠
- ㊸川本清郎
- ㊹中村 昭平
- ㊺吉田 慶治
- ㊻毛利 篤
- ㊼山本 和利
- ㊽山本 宏
- ㊾奥野 勝義
- ㊿泉原 朝子(寺田)
- ①永江 幸四郎
- ②松崎 孝博
- ③川上 信子(藤)
- ④山口 五郎
- ⑤藤藤 洋三
- ⑥未安 征一
- ⑦中嶋 輝彦
- ⑧中嶋 保弘
- ⑨安河内 晃
- ⑩吉本 裕
- ⑪黒崎由紀子(藤野)
- ⑫小金丸哲也
- ⑬下喜美子(今井)
- ⑭増田 逸子
- ⑮伴 秀樹
- ⑯永江 幸四郎
- ⑰松崎 孝博
- ⑱川上 信子(藤)
- ⑲山口 五郎
- ⑳藤藤 洋三
- ㉑未安 征一
- ㉒中嶋 輝彦
- ㉓中嶋 保弘
- ㉔安河内 晃
- ㉕吉本 裕
- ㉖黒崎由紀子(藤野)
- ㉗小金丸哲也
- ㉘下喜美子(今井)
- ㉙増田 逸子
- ㉚伴 秀樹

卒業回生	19年度	前年度	卒業回生	19年度	前年度
21~30	18	26	70	46	95
31	12	18	71	13	17
32	14	15	72	28	27
33	13	16	73	11	20
34	10	9	74	13	13
35	26	36	75	24	28
36	12	17	76	8	15
37	23	27	77	13	13
38	28	30	78	12	14
39	45	47	79	26	29
40	44	45	80	13	21
41	41	46	81	14	21
42	47	46	82	23	29
43	40	47	83	10	8
44~45	71	78	84	7	7
46~47	67	68	85	7	9
48	35	34	86	8	10
49	25	23	87	7	10
50	66	70	88	3	7
51	95	99	89	4	5
52	87	100	90	5	4
53	70	67	91	3	4
54	95	105	92	2	2
55	107	113	93	2	2
56	105	104	94	4	5
57	99	100	95	4	6
58	95	101	96	3	1
59	97	101	97	3	3
60	73	68	98	3	2
61	65	72	99	1	3
62	69	73	100	6	5
63	100	120	101	5	5
64	76	69	102	6	10
65	38	39	103	7	9
66	40	38	104	21	312
67	43	45	105	19	19
68	62	33	別1~別15	19	19
69	30	36	定1~定13	26	25
			合計	2,808	2,996

平成20年3月31日現在

- ①白水登一郎 (H20.1.5)
- ②堀田 耕二 (H19.8.3)
- ③水田 薫 (H20.3.5)
- ④中村 誠 (H20.1.31)
- ⑤川本清郎 (H20.1.11)
- ⑥中村 昭平 (H20.2.15)
- ⑦吉田 慶治 (H20.2.15)
- ⑧毛利 篤 (H20.1.4)
- ⑨山本 和利 (H20.1.1)
- ⑩山本 宏 (H20.1.1)
- ⑪奥野 勝義 (H20.1.14)
- ⑫泉原 朝子(寺田) (H19.12.2)
- ⑬永江 幸四郎 (H20.1.5)
- ⑭松崎 孝博 (H20.2.21)
- ⑮川上 信子(藤) (H19.11)
- ⑯山口 五郎 (H19.11)
- ⑰藤藤 洋三 (H17.2.1)
- ⑱未安 征一 (H20.3.27)
- ⑲中嶋 輝彦 (H20.2.2)
- ⑳中嶋 保弘 (H20.2.2)
- ㉑安河内 晃 (H19.12.28)
- ㉒吉本 裕 (H19.12.28)
- ㉓黒崎由紀子(藤野) (H20.2.3)
- ㉔小金丸哲也 (H20.2.24)
- ㉕下喜美子(今井) (H20.2.24)
- ㉖増田 逸子 (H19.1.24)
- ㉗伴 秀樹 (H20.1.28)

会員のご協力に対し深く感謝し、厚くお礼申し上げます。
 会費は母校への奨学金給付、体育部奨学金の寄付等有益に運用させていただいております。
 これからも年会費の納入についてご協力賜りますようお願い申し上げます。
 なお会費納入のお願いを会報発行時に毎回お届けしておりますが、既に納入済みの方はご容赦下さい。

●元気印の企業紹介 GENKI COMPANY vol.11●

「70にもいろいろ
あります…」



福岡テープ株式会社

代表取締役 糸永 清二さん(55回生)

ラグビー魂で独立

福商時代の糸永君は2年生の夏休み前、強引にラグビー部に入学させられ、右も左もルールも分からないまま練習に駆り出され、毎日がラグビー漬けの高校生活だった。合宿時は先輩たちが指導にきていたが、現役生徒より多く、入部したばかりなのに「何年ラグビーでしょうとか」と叱咤されていた光景を思い出す。ポジションは6番(FW)で頑張っていた。当時の博多駅は呉服町寄りであり、自宅のある住吉宮前から、駅裏の牛、豚の屠殺場(現合同庁舎)を横に見ながら、40分程かけて通学していた。彼はいつもラグビー仲間と会うと「3年のシーズン終了までラグビーを続けられたのは、部員の友情のおかげだ」と感謝の気持ちを忘れない男だ。

卒業後は就職指導の先生が勧めるまま、呉服町の問屋街にある日用雑貨や化粧品を扱う卸問屋に就職。朝から晩まで勤め(休みは月2回程度)、取引先を自転車で配達に掛けず回り懸命に働いたが、なにせ給料が安かったらしく3年間勤めて辞めてしまった。今、思い出しているのは「ラグビー漬けで勉強しなかったのが自業自得」と苦笑いしながら話してくれた。その後、独立のきっかけとなる大阪が本社の、ガムテープを製造販売している会社の福岡営業所に勤め、九州管内を汽車に乗って営業活動するなど7年間勤務した。しかし、苦勞して新しい取引先を見つけて取引開始しても、同業他社に比べ品質が悪く、品質改善を会社に求めても、一向に改善されず苦勞の連続だったようである。

福岡テープ株式会社



工業用テープ
包装テープ
梱包機・梱包資材
カッティングテープ
カット絵文字制作



【住所】

本社：〒812-0893 福岡市博多区那珂3丁目2番4号
☎(092) 411-3929 (代表) FAX(092) 474-4938
佐賀工場：〒842-0034 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町箱川2333-1
☎(0952) 55-8224 (代表) FAX(0952) 53-4944
外ホール工場：〒869-0123 熊本県玉名郡長洲町長洲2168
☎(0968) 78-3964 (代表) FAX(0968) 78-3965

そこで持ち前のラグビー魂で「どうせ苦勞するなら、この経験を活かして独立しよう」と1967年4月に会社を興した。当時の年齢はまだ28歳。金もない。地盤もない。ないないづくしだったが、40年経った今、九州管内の製造メーカーに工業用テープなどを納品し、県下では大手卸として躍進している。主力は工業用テープほか、梱包・包装用品を取り扱っており、最近ではクリーンルームの設備を整え、両面テープの抜き打ち加工などをIC関連企業に納入できるよう頑張っている。

私の信条

糸永君がこれまでに経験したことを踏まえ、次にバトンタッチする後継者へ「是非とも伝えたい」と経営信条を笑顔で語ってくれた。

- ◎ 大きな資本で、大きな利益、小さな資本で、大きな赤字。
- ◎ 売ろう売ろうが、売れない始め。
- ◎ 借金、支払手形は鬼より怖い。
- ◎ お得意先は、もちろん大切。仕入先は、もっと大切に。

後藤 幹生(55回生)

NETWORK SYSTEM REMIX Co.,Ltd
TEL:092-452-7055 FAX:092-452-7071

株式会社 エヌ・エス・エックス

コンピュータネットワークシステム構築事業
ホームページ企画・制作・コンサルティング
電子データサービス・レンタルサーバー
インターネット・WEBカメラ

代表取締役 **跡部 宗教** (79回生)
ATOBE MUNENORI

福岡市博多区博多駅前3丁目29-21 貝貝ビル2F
Total Support Of Computing TEL:092-452-7055 FAX:092-452-7071

DALIA
INCORPORATED

代表取締役会長
高木 不二男 (60回生)
Fujio Takaki

株式会社 ダリア
〒812-0016 福岡市博多区博多駅前4-3-25
TEL 092-472-3035 FAX 092-472-2347
E-mail/f-takaki@dalia.co.jp
http://www.dalia.co.jp

**不動産の仲介
(有)ヨシイホーム**

代表取締役 **吉井 薫** (64回生)

福岡県知事免許(5)第12151号(社)福岡県宅地建物取引業協会会員
〒812-0041 福岡市博多区吉塚1丁目41番9号
TEL 092-621-2840 FAX 092-612-2040

「うまい!」うれしいお礼のことば
きつと印象に残ります……………

味のめんたい 福太郎

代表取締役社長 **山口 毅** (52回生)

■配送センター・工場
〒815-0001 福岡市南区五十川1-1-1 電話(092)475-7777

傑作まんじゅう

博多通りもん

株式会社 **明月堂**

秋丸 武士 (58回生)

〒812-0892 福岡市博多区東那珂2-11-23
TEL(092)411-7777 FAX(092)411-7878

総合建設業一級建築士事務所

株式会社 五成建業

取締役会長 **安河内 馨** (46回生)

東京都世田谷区上馬4の13の19
TEL 03(3418)8151(代)
FAX 03(3424)9418

株式会社 堀江本店

相談役 **堀江 武** (52回生)
代表取締役社長 **堀江 徹** (75回生)

〒816-0063 福岡市博多区金の隈3丁目14-41
TEL(092)503-0121(代)
FAX(092)504-1219

Ad Agency
株式会社 **春潮社**
since 1933 Shun cho sha

代表取締役 **古川 淳二** (63回生)

□本 社 〒812-0044 福岡市博多区千代4-29-12
092-641-1031 092-631-2690
営業所/営業部 久留米
交通広告/電柱広告/開院・開業ツール/マス媒体広告/SP広告/屋外広告
□ www.shunchosha.co.jp

線香・ローソク・お香・広告マッチ

株式会社 **中島晴薫堂**

代表取締役会長 **中島 勝敏** (55回生)

〒812-0044
福岡市博多区千代4-8-19 TEL092-651-0441 FAX092-651-0449
〒854-0055
長崎営業所 諫早市葉面町288番地305号 TEL-FAX0957-21-0675

工業用テープ
包装テープ
梱包機・梱包資材
カッティングテープ
カット絵文字制作

福岡テープ株式会社

代表取締役 **糸永 清二** (55回生)

福岡市博多区那珂3丁目2-4
TEL 092-411-3929(代)

創業120周年

imai
PRINTING

代表取締役会長 **今井 勝彦** (57回生)

今井印刷株式会社

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1丁目2番20号
TEL 092-781-5492 FAX 092-781-5613

躍進する { 総合建設業・木作業
柏屋グループ } 不動産業・アパマン柏屋店
一級建築士事務所

柏屋殖産株式会社

代表取締役会長 **篠原 隆義** (54回生)

本 社 柏屋郡柏屋町大字仲原2525
電話(代表)621-1331番

有限会社
エステート平野

代表取締役 **平野 俊一** (46回生)

〒812-0007 福岡市博多区東比恵2丁目11番8号
TEL(092)431-5616

**紙与産業株式会社
紙与不動産株式会社**

代表取締役会長 **渡邊 與三郎** (39回生)

福岡市中央区天神1丁目12の14号
電話(092)721-4531番

お見積もりをさせていただきます
同窓生特別割引を致します

早く・安く・丁寧にをモットーにしております。

代表取締役 **永島 光雄** (55回卒)
笠木 雄二 (65回卒)
印刷の **本村 智彦** (82回卒)

nip 株式会社 ナガシマ
福岡市博多区豊1丁目9-18 TEL482-7751(代) FAX482-7734

伝えたい・残したい物があるとき
一冊の本にしてみませんか!!
お気軽にお電話下さい。

正光印刷株式会社

藤村 みつ (53回生)

営業所/福岡市中央区赤坂1丁目3番7号
PHONE:(092)741-3266

倶楽部

萌 since 1999

長谷 州身子 (81回生)

〒810-0801 福岡市博多区中洲2丁目3-1 中洲Fビル3F
TEL092(262)5577

運送引越 梱包

PROFESSIONAL by
Uratsuka PRO.
www.urapro.jp

代表 **浦塚 健二** (89回生)

本社:〒816-0862 福岡県春日市弥生4丁目61-1
TEL/092-584-8057 FAX/092-584-8079
e-mail/info@urapro.jp
☎ 0120-100-822

営業所 福岡営業所/熊本営業所/大分営業所

記事投稿のお願い

会員皆様からの記事投稿をお願いしております。随想、俳句、写真、趣味や
同舟往來の紹介など何でも結構です。ご連絡をお待ちしております。

〒810-0041 福岡市中央区大名1丁目12-57 **社団法人 福商会**

TEL:092-711-9890 FAX:092-711-9266

平成19年10月移転新装オープン!

生け簀 魚村
寿司割烹

福岡市中央区大名1丁目4-24 ☎(092)781-7388
代表取締役 **日野 孝治** (77回生)

順不同 広告掲載を募集しています。広告掲載料は1万円です。お問い合わせは福商会事務局まで。

会館だより

吉住 正隆さん(58回生) 第42回(平成20年) 福岡市美術展工芸部門に入選

吉住正隆さんが第42回福岡市美術展の工芸部門で入選されました。吉住さんは葉っぱで描く葉画(はが)の技法で県展や市美術展に入選しており、今回の作品は「博多祇園山笠 オッショイ!」です。吉住さんは「四季折々の葉っぱを押し葉にして数年保存し、この草木の葉っぱが絵の具となります。葉っぱの形をヒントにして心で描いています」と喜びを語ってくれました。

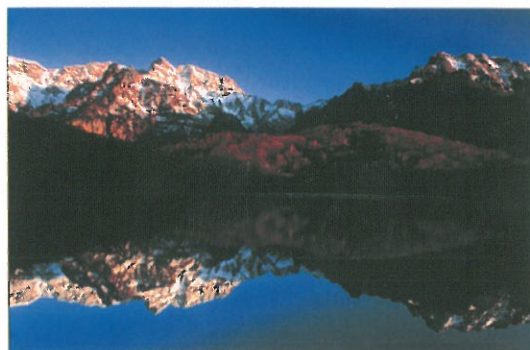


川添 隆司さん(58回生) 第63回福岡県美術展覧会に入選



川添さんが第63回福岡県美術展覧会写真部門で入選され、本人から喜びの便りが届きました。

「退職後から本格的に始めた趣味の写真が、撮影旅行を重ねるたびにあまり込み、各種の展覧会に出品するようになりました。福岡市の美術展の入選などありましたが、今回念願の県展で作品『朝光』が入賞しました。撮影場所は長野県戸隠村、鏡池の4月末早朝の作品です」



松下獨酌
行人隠微徑古寺帶平岡山勢依城斷河流入野長樹
欽支壤道草臥壓頽牆獨酌無人共松風薦一觴



狭き門です。田代さんは在校時代、岸本雷峰先生に教わり、社会人になってからは書道界の重鎮である故村上三島先生の門下生となり、日展22年目の挑戦でこのたびの快挙となりました。

田代 登志夫さん (59回生) 日展に初入選

書の部1万余点の出品から
選ばれる

日本美術界をリードしている第39回(平成19年度)日展の書の部で田代さんが初入選されました。全国から10,648点が出品し、952点が入選となる

日本美術界をリードしている第39回(平成19年度)日展の書の部で田代さんが初入選されました。全国から10,648点が出品し、952点が入選となる

古戦場での無常の思いを発している。この言葉の用法に芭蕉の高貴な精神が示され、人柄がしのばれる。これらの教えは、私が母校において上野正澄先生や丸田淳先生から教わったところである。

次代を担う後輩たちが、言葉を正しく用い母校の卒業生としての品格を養って頂きたい。この会報がそのための一助になれば幸いである。

山地政美(50回生)

自分の子供と同じ年代から、親もしくは祖父母にあたる年代といった幅広い年齢層をもつ、同窓会組織の会報作りはとても難しいのだと実感しています。しかし、その中で続けていくこと、繋げていくことが重要な事と認識しています。これからの福商会を担っていく若い世代の方々にも、もっと積極的に参加して頂き、新しい発想とパワーで、より一層魅力ある会報誌を目指してゆきたいと思います。

枝村裕子(79回生)

編集後記

最近の会報は読みやすくなったとお褒めの言葉が届くと、事務局から聞かされる。有り難いことだが、もっと努力せよとの励ましの言葉でもあろうかと反省している。寄せられた原稿は、各位が個性豊かな言葉を用いて書かれているので、筆者の意中を読み取り、文意を生かした大見出しや文中の小見出しにも配慮している。

今後はページごとの記事の割り付けや、文字の大きさ、さらに会報全体のバランスなど、工夫改善する必要があると考えている。また、文章のなかに、気になる言葉が目につくことも注意しておきたい。「すごく感動した」は「すごく感動した」であり、自己体認は「スゴク」と表現し、客観的観察は「スゴイ感動であった」と説明するのが自然である。さらに、「私ども」や「彼方たち」の用語にも乱れがみられる。「タチ」は尊敬語で、「トモ」は謙遜語である。芭蕉の俳句に、「菊の香や奈良には古き仏たち」と御仏を仰ぎ、奥州藤原三代の城址では、「夏草や兵どもが夢の跡」と

記事に関するお問い合わせは、
福商会事務局へ

TEL:092-711-9890 FAX:092-711-9266